

# S90 XS/S70 XSEディターマニュアル

## 目次

S90 XS/S70 XSEディターとは .....	2
Studio Managerとは.....	2
Studio Connectionsとは .....	2
Open Plug-in Technologyについて .....	3
S90 XS/S70 XSEディターのデータ構成 .....	4
S90 XS/S70 XSEディターの起動.....	5
S90 XS/S70 XSEディターの操作の流れ .....	6
各部の名称と機能 .....	12
S90 XS/S70 XSEディターの基本操作 .....	34
メニュー .....	36
トラブルシューティング.....	51

- 市販の音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- このソフトウェアおよびマニュアルの著作権はすべてヤマハ株式会社が所有します。
- このソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- このソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- このファイルに掲載されている画面は、すべて操作説明のためのもので、実際の画面と異なる場合があります。
- 「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、このファイルに掲載されている会社名および商品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。
- このマニュアルファイル内の「赤色」の文字をクリックすると、関連する項目にジャンプします。

このマニュアルは、お客様がWindows/Macintoshの基本的な操作方法について十分おわかりいただいていることを前提に書かれています。Windows/Macintoshの操作方法については、Windows/Macintoshに付属のマニュアルをご参照ください。S90 XS/S70 XSEディターを使用するために必要なコンピューター環境、機器の接続、S90 XS/S70 XSEディターのインストールについては、別冊のインストールガイドおよびご使用のMIDI機器に付属の取扱説明書をご参照ください。

# S90 XS/S70 XSエディターとは

S90 XS/S70 XSエディターは、S90 XS/S70 XSのボイスまたはマルチ音源の設定を、コンピューター画面を使って視覚的に確認しながら編集することができるソフトウェアです。S90 XS/S70 XS本体のパラメーターをコンピューターからリモートで編集したり、S90 XS/S70 XS内のデータをコンピューターに保存したりできます。

このS90 XS/S70 XSエディターは、

- Studio Manager
- Studio Connections対応DAWアプリケーション

のプラグインとして利用できます。

## Studio Managerとは

Studio Manager V2は、ヤマハのハードウェア製品をリモートコントロールする複数のエディターソフトウェアを起動させたり、複数のエディター設定を保存したりする共通のプラットフォームです。Studio Managerは、単独のアプリケーションとして、またCubase 4やCubase AI 4のようなStudio Connections対応DAWアプリケーションのプラグインとして動作します。

詳細はStudio Manager取扱説明書(PDFマニュアル)をご参照ください。

## Studio Connectionsとは



Studio Connectionsとは、Steinberg社とヤマハが先導する共同プロジェクトです。コンピューターを中心とした音楽制作環境では、ソフトウェアとハードウェアを組み合わせ使用状況が一般的ですが、このような状況でハードウェアとソフトウェアそれぞれの良い部分を活かしながら、さらに利便性の高い環境を提供するためのソリューションです。以下のようなソリューションを実現しています。

## Recall

各エディターの設定は、Studio Managerでまとめて保存/呼び出しできます。

すなわち、複数の機器の設定をStudio Managerからまとめて呼び出す(リコールする)ことにより、システム全体の設定を簡単な操作で変更できます。この機能をRecall (リコール)と呼びます。

Studio ManagerからRecallが実行された場合、S90 XS/S70 XSエディターは、「エディター設定」の Auto Sync Setting (39ページ)で設定されたデータと転送方向に従って、S90 XS/S70 XS本体とのデータ同期を行ないます。

さらに、Studio Connectionsに対応したDAWアプリケーションをお使いの場合は、各エディターのデータを、DAWアプリケーションのプロジェクトファイルの一部として保存できます。これにより、DAWアプリケーションのプロジェクトファイルを開くだけで、自動的に各機器の設定をリコールできます。

## Audio Integration

DAWアプリケーションにプラグインされたソフトウェアシンセサイザーやソフトウェアエフェクトを使う場合は、DAWアプリケーションからの設定が非常に簡単です。しかし、ハードウェアを使用する場合は、オーディオ接続、ドライバ設定、オーディオポートの設定など、さまざまな準備が必要です。

Studio Connections対応DAWアプリケーションを使えば、このような複雑な接続の組み合わせや設定をすることなく、ソフトウェアシンセサイザーやソフトウェアエフェクトと同じ感覚で、ハードウェア機器を扱えるようになります。この機能をAudio Integrationと呼びます。

RecallやAudio Integrationの詳細は、ウェブサイトをご参照ください。

Studio Connectionsホームページ

<http://www.studioconnections.org/jp/>

## Open Plug-in Technologyについて

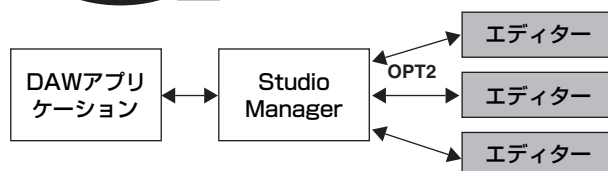
Open Plug-in Technology (以下OPT)は、DAWアプリケーションなどのソフトウェアからMIDI機器をコントロールするためのソフトウェアプラグインフォーマットです。たとえば、シンセサイザー、プラグインボードの音色エディターや、ミキサーをコントロールするエディターなどを、別々に起動させるのではなく、OPTに対応したアプリケーションの中で動作させることができます。アプリケーションごとにMIDIドライバの設定などをする必要がなくなり、音楽制作をより快適でシームレスに行なう環境を実現します。

従来のOPTに加えて、Studio Connectionsを実現するためのOpen Plug-in Technology Version 2 (以下OPT2)があります。Studio Managerは、OPT2対応のアプリケーションです。

### OPT2の概要



OPT2は、OPTのレベル1 (PANELS)を発展させて、Studio Connectionsを実現するための機能を付加したソフトウェアプラグインフォーマットです。



OPT2対応のプラグインソフトウェアは、OPT2対応のアプリケーション(Studio Managerなど)経由でStudio Connections対応DAWアプリケーションに間接的にプラグインされます。

# S90 XS/S70 XSエディターのデータ構成

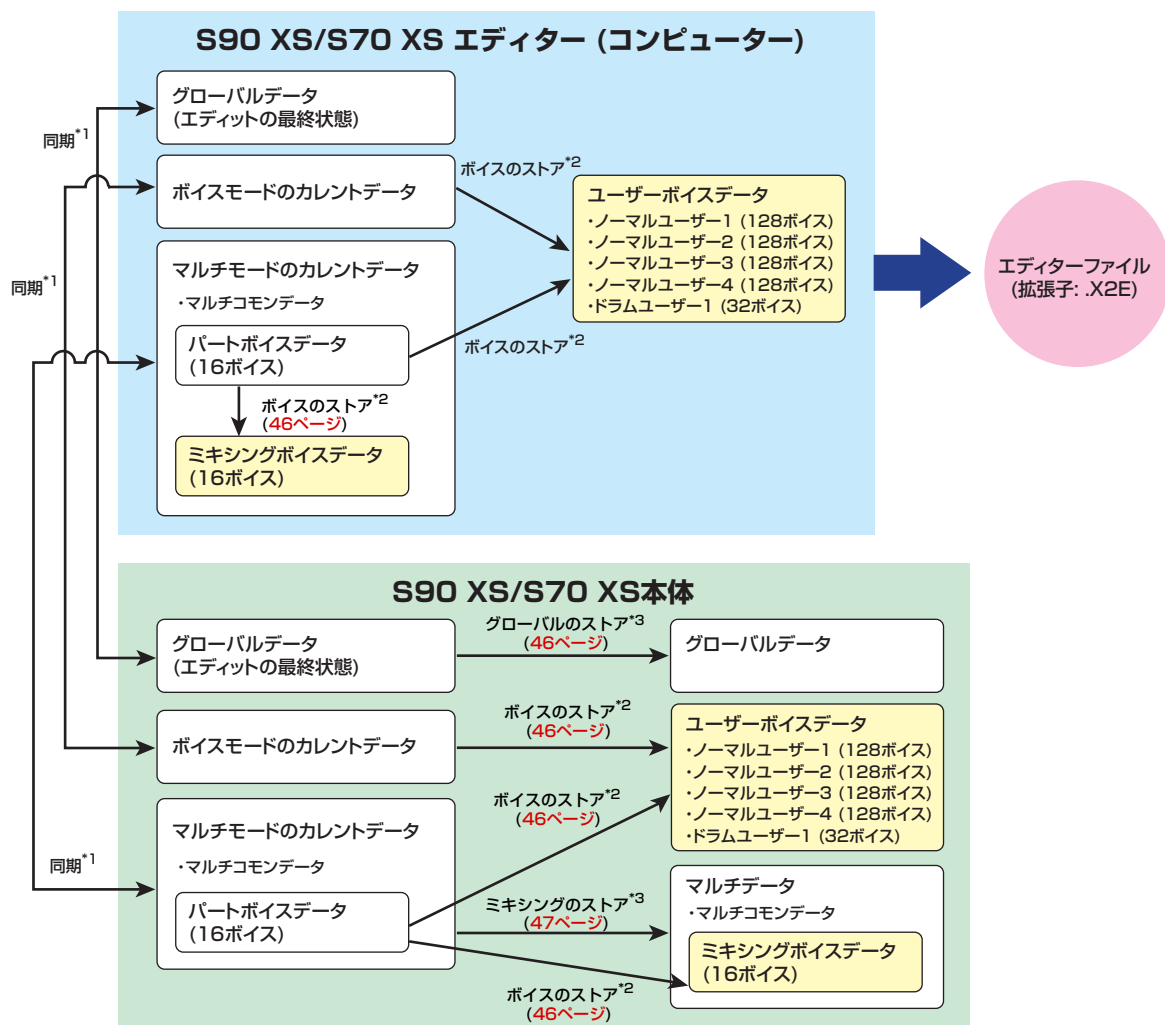
S90 XS/S70 XSエディターでは、下記を1つのファイルとして保存できます。

- ・グローバルデータ(エディットの最終状態)
- ・ボイスモードのカレントデータ(エディットの最終状態)
- ・マルチモードのカレントデータ(ミキシングデータ、各パートでのボイスエディットの最終状態、ミキシングボイス×16)
- ・ユーザーボイスデータ(ノーマルユーザー×4、ドラムユーザー×1)

カレントデータとは、各パートのボイス設定やパン、ボリューム、エフェクトなどのミキシング設定だけでなく、各パートで最後に選択されていたボイスの、コモンエディットやエレメントエディットの最終状態も含んでいます。また、保存できるボイスバンクのうち、ミキシングボイスだけはカレントデータに属します。エディターでは各パートのボイスを、エレメントにまで踏み込んでエディットでき、またそのエディットした最終状態を、ユーザーボイスやミキシングボイスとして本体にストア(保存)しなくても、そのままファイルとして保存できます。したがって、保存したファイルをあとで再度読み込めば、エディットの最終状態をすぐに再現することができ、便利です。

**NOTE** S90 XS/S70 XSエディターでは、ミキサー部の「G」列に表示されているパラメーターの一部と、パラメーターカテゴリー部の「Global Settings」のパラメーターを合わせて、「グローバルデータ」として扱っています。

S90 XS/S70 XSエディターによって作られるデータの構成、S90 XS/S70 XS本体内部のメモリーでのデータ構成、および両者の関係については下図をご覧ください。



\*1 コンピューターとS90 XS/S70 XS本体が適切に接続されていてオンラインの状態に設定されていれば、エディター側でエディットしても本体側でエディットしても設定された状態は同期します。

\*2 エディター側でストア(保存)操作を行なうことで、実機側でもストアが行なわれます。

\*3 グローバルデータとマルチデータについては、エディター側でのストア(保存)操作により、S90 XS/S70 XS本体のメモリーにデータが保存されます。エディター側(コンピューター側)に保存先はありません。

S90 XS/S70 XSエディターでは、上図のようにS90 XS/S70 XS本体と同じバンク構成のユーザーボイスデータやミキシングボイスデータと、エディットの最終状態(カレントデータ)をまとめて1つのファイルとして保存(セーブ)します。エディットした最終状態を、ユーザーボイスやミキシングボイスとしてストア(保存)しなくてもそのままファイルとして保存できるので、保存したファイルをあとで再度読み込めば、エディットの最終状態をすぐに再現することができ、便利です。

# S90 XS/S70 XSエディターの起動

S90 XS/S70 XSエディターのインストールガイドに従って、S90 XS/S70 XSエディターやその他の必要なソフトウェア、ドライバーなどをインストールします。コンピュータとS90 XS/S70 XSをUSBケーブルで接続し、S90 XS/S70 XSのMIDIメッセージの入出力先を設定したあと、以下の操作でS90 XS/S70 XSエディターを起動します。

**NOTE** S90 XS/S70 XSとコンピュータとの接続について詳しくは、「S90 XS/S70 XS取扱説明書」の「コンピュータとの接続」をご参照ください。

1. 単独のアプリケーションとして、またはStudio Connections対応DAWアプリケーションのプラグインとしてStudio Managerを起動します。

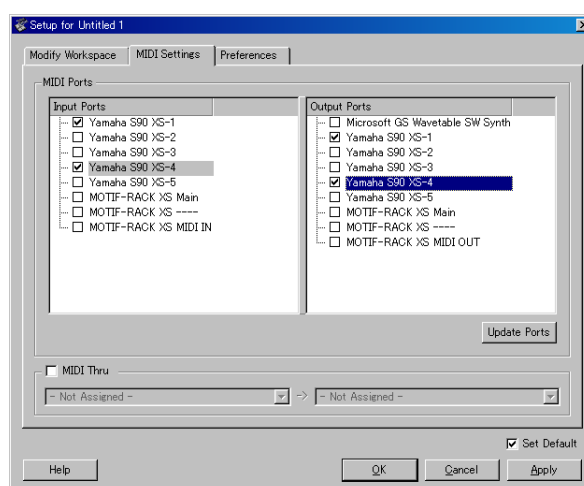
2. MIDIポートを設定します。

## ■ 単独のアプリケーションとしてStudio Managerを起動した場合

以下の操作手順でMIDI Ports画面を表示し、Studio ManagerのMIDIポートを設定します。

[File]→[Setup]→[MIDI Settings]

Input Ports (入力ポート)/Output Ports (出力ポート)のどちらも、S90 XS/S70 XSのポート1と4の両方にチェックを入れます。



**NOTE** Studio Managerバージョン2.3.0以降では、MIDIスルー機能が追加されました。この機能を使用すると、DAWソフトウェアを使用していない場合でも外部MIDIキーボードによるノートオン/オフメッセージを、コンピュータ経由でS90 XS/S70 XSに送信できます。したがって、鍵盤演奏をしながらS90 XS/S70 XSのボイスエディットの結果を確認できます。

## ■ Studio Connections対応DAWアプリケーションのプラグインとしてStudio Managerを起動した場合

DAWアプリケーション側でMIDIポートの設定をしてください。詳しくは、DAWアプリケーションの取扱説明書をご覧ください。

USBケーブルで接続している場合、Cubase 4.5やCubase AI 4.5からStudio Managerを起動しただけでポート設定が自動的に行なわれます。

3. Studio ManagerウィンドウからS90 XS/S70 XSエディターを起動します。

詳細は、インストールガイドやStudio Manager取扱説明書(PDFマニュアル)をご参照ください。

さらに、S90 XS/S70 XSエディターはStudio Connections Audio Integrationに対応しているため、Studio Connections対応DAW上ではソフトウェアシンセサイザーと同じような手順で起動することもできます。

詳細は、ウェブサイトをご参照ください。

<http://www.studioconnections.org/jp/>

# S90 XS/S70 XSエディターの操作の流れ

S90 XS/S70 XSエディターの使い方には、決まった操作手順はありません。次のような操作の流れを参考に、目的に合ったエディット作業を行なってください。ここでは、ボイスモードでのボイスエディット、マルチモードでのミキシングエディットを順に行ない、エディットして作られたデータをS90 XS/S70 XS本体の内部メモリーにストア(保存)したり、エディットした最終状態をファイルとしてセーブ(保存)する流れを説明します。

**NOTE** Voice/Multi表示があらかじめ「Multi」になっている場合は手順1から、Voice/Multi表示があらかじめ「Voice」になっている場合は手順2から操作してください。

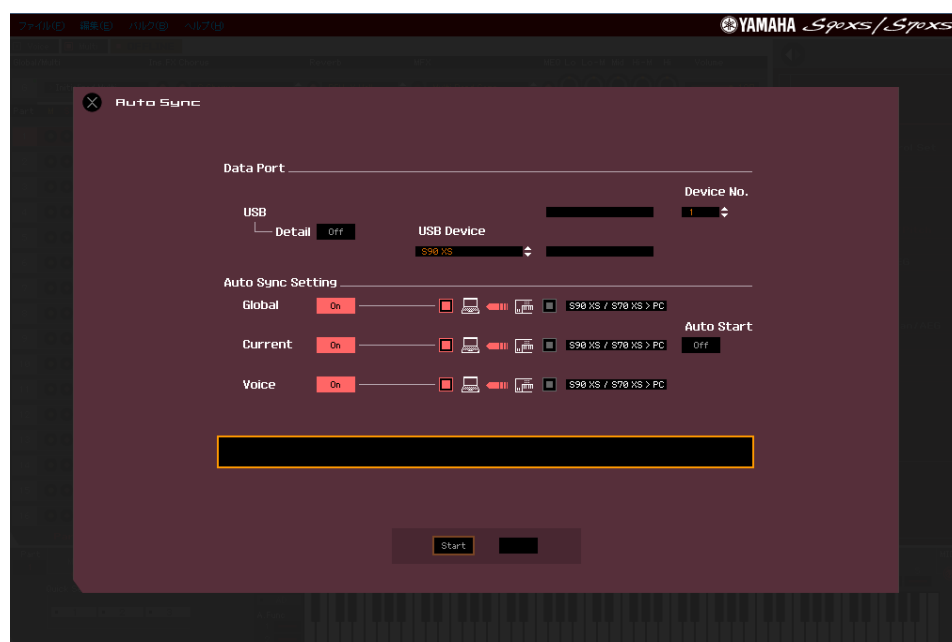
## 1. Voice/Multi (ボイス/マルチ)表示の「Voice」をクリックし、ボイスモードに切り替えます。

コンピューターとS90 XS/S70 XS本体が適切に接続され、エディター起動前にMIDIポート (39ページ)が正しく設定されていれば、エディターを起動した時点でONLINE/OFFLINE表示はONLINEとなり、S90 XS/S70 XSエディターとS90 XS/S70 XS本体は常に同期のとれた状態になっています。その場合、この手順1の操作でAuto Sync画面が自動的に現われますので、手順3に進んでください。

## 2. ONLINE/OFFLINE (オンライン/オフライン)表示がOFFLINEになっている場合は、[OFFLINE]をクリックしてAuto Sync (オートシンク)画面を表示させます。

## 3. Auto Sync (オートシンク)画面では、Data Port部でS90 XS/S70 XS本体と通信するための入出力用ポートやデバイスナンバー、Auto Sync Setting部でカレントデータとユーザーボイスデータそれぞれの同期方向などを設定します。

データ同期の方向は、S90 XS/S70 XS本体のデータを元に編集をしたい場合、S90 XS/S70 XS本体から受信する方向に設定してください。コンピューター上に保存していたエディターのファイルを元に編集をしたい場合は、S90 XS/S70 XS本体に送信する方向に設定してください。設定の詳細は、「エディター設定」(39ページ)をご覧ください。

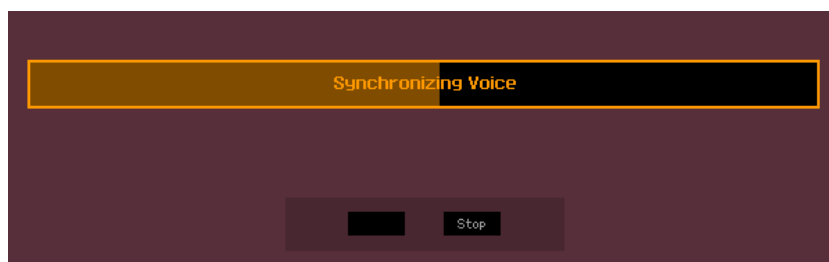


❗ Auto Sync (オートシンク)画面のGlobal (グローバル)、Current (カレント)、User Voice (ユーザーボイス)をOnにし、その横にある音源イラストの右横にあるボックスをオンにして[Start]ボタンをクリックすると、エディター上の各データがS90 XS/S70 XS本体に転送されます。これにより、S90 XS/S70 XS本体メモリー上の各データが、上書きで消されることになるのでご注意ください。S90 XS/S70 XS本体のデータを元に編集をしたい場合は、必ずコンピューターイラスト側のボックスをオンにしてください。

❗ データ同期の方向については、Studio Managerでの設定ではなくエディター上記画面での設定が適用されます。誤ってデータを失なうことがないように、データ同期の方向についてはエディター上で確実に行ってください。

#### 4. Auto Sync (オートシンク)画面で、[Start]ボタンをクリックします。

ポートが正しく設定されていれば、データ同期が始まります。完了すると自動的にAuto Sync画面が閉じ、エディターはONLINE状態になっています。ONLINE (オンライン)の状態とは、エディター上での設定変更がそのままS90 XS/S70 XS本体にも反映される、またはその逆にS90 XS/S70 XS本体上での設定変更がそのままエディター上にも反映される状態をいいます。



#### 5. ボイスモードで、ボイスのエディットを行ないます。

**5-1 Voice (ボイス)欄にある「V」の列の、バンク名またはボイス名のボックスをクリックすると、「VOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)」が表示されます。**



#### 5-2 エディットしたいボイスをVOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)のリストから選択します。

エディットしたいボイスをクリックしたら、S90 XS/S70 XS本体の鍵盤を弾くか、鍵盤のイラストをクリックして音色を確認しましょう。

#### 5-3 エディットしたいボイスが決まったら、そのボイス名をダブルクリックするか、画面右下にある[OK]をクリックして、VOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)画面を閉じてください。

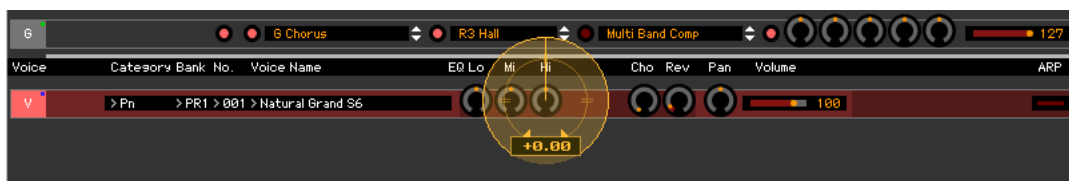
VOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)画面では、ボイス名をダブルクリックするか、画面右下にある[OK]ボタンをクリックすることで選択が確定し、画面自体も閉じます。ボイス選択をとりやめたい場合は、画面右下にある[Cancel] (キャンセル)か[X] (終了)ボタンをクリックしてください。VOICE LIBRARYが閉じられ、エディットの対象となるボイスも元に戻ります。



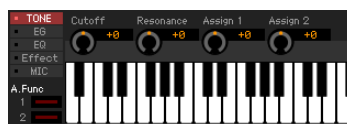
エディットの対象となるボイスを別のボイスに変更すると、それまでエディットしていたボイスの状態は消去されます。それまでにエディットしていたボイスを保存したい場合は、ストア(46ページ)を実行してからボイスを変更しましょう。

## 5-4 各種パラメーターの設定を行ない、ボイスをエディットします。

Voice (ボイス)欄のVの列にあるEQ、コーラス、リバーブなどのパラメーターをクリックして値を変更してみましょう。



音がどのように変わるかについては、画面下部にある鍵盤イラストをクリックして聞いてみましょう。



画面右端にあるパラメーターカテゴリー部(21ページ)のオープン/クローズボタン(🔍 ボタン)をクリックすると、詳細パラメーター部が開きます。詳細パラメーター部では、現在エディット中のボイスに対して、さらに細かいパラメーター設定ができます



## 6. 必要に応じて、エディットしたボイスを保存(ストア)します。

### 6-1 [編集]メニューの[ボイスのストア]を選択してストア画面(46ページ)を開きます。

### 6-2 以下のボイスバンクから保存するバンクを選択します。

- Normal User 1 (ノーマルユーザー 1)
- Normal User 2 (ノーマルユーザー 2)
- Normal User 3 (ノーマルユーザー 3)
- Normal User 4 (ノーマルユーザー 4)
- Drum User (ドラムユーザー)

**NOTE** ノーマルボイスをエディットしていた場合はノーマルユーザー 1~4がストア画面に、ドラムボイスをエディットしていた場合はドラムユーザーバンクがストア画面に表示されます。

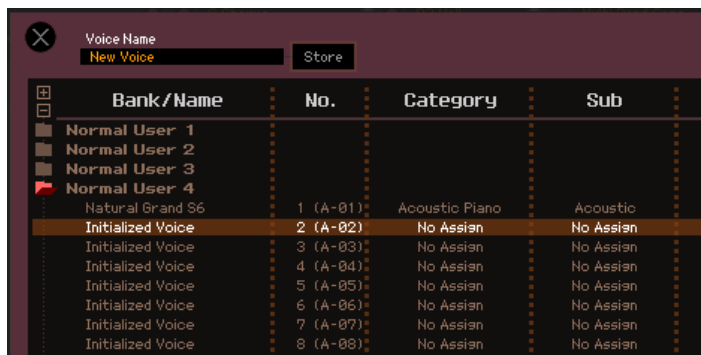
### 6-3 選択したバンクを開き、保存したいナンバーを選択し、必要に応じてボイスネームを付けます。

**6-4 [Store]ボタンをクリックして、エディットしたボイスを選択したバンクのナンバーに保存します。**

ストアを実行することで、ボイスデータはエディター内部のユーザーバンクに保存され、さらに同期してS90 XS/S70 XS本体メモリーにあるユーザーバンクにも同様に保存されます。



ストアを実行することによりストア先のボイスデータが、S90 XS/S70 XSエディター内およびS90 XS/S70 XS本体メモリーとも書き換えられます。大切なボイスデータを間違えて消去することがないように、注意してストア先を選びましょう。



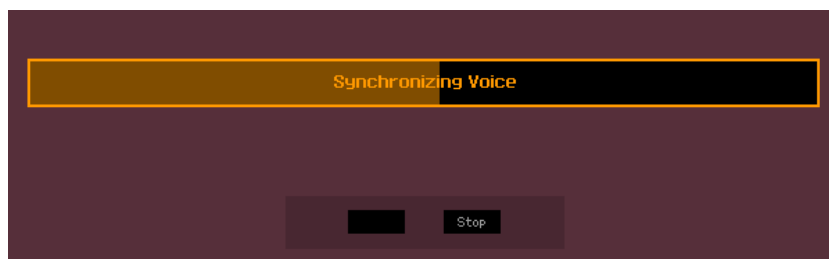
**NOTE** [編集]メニューの[グローバルのストア]を選択すれば、Global (グローバル)欄のG列でエディットした内容をS90 XS/S70 XS本体に保存できます。

**7. マルチのエディットを行ないます。****7-1 Voice/Multi (ボイス/マルチ)表示の「Multi」をクリックし、マルチモードに切り替えます。**

Auto Sync画面が自動的に現われます。

**7-2 Auto Sync (オートシンク)画面で、[Start]ボタンをクリックします。**

ポートが正しく設定されていれば、データ同期が始まります。完了すると自動的にAuto Sync画面が閉じます。



### 7-3 Global/Multi (グローバル/マルチ)欄にある「G」の列の左端にあるマルチ名のボックスをクリックすると、「MULTI LIBRARY (マルチライブラリー)」が表示されます。

MULTI LIBRARY (マルチライブラリー)には、ONLINEになったときに、本体に保存されているマルチが表示されます。

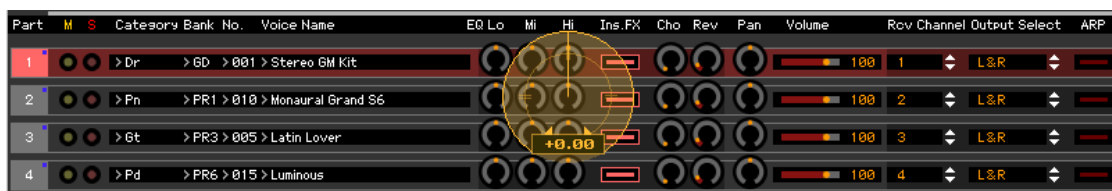


### 7-4 マルチ音源設定を、MULTI LIBRARY (マルチライブラリー)のリストの中から選択します。

マルチ音源設定を選択すると、パート1～16のボイス割当などすべてのパラメーターが一度に設定されます。

### 7-5 各種パラメーターの設定を行ない、マルチや各パートに割り当てられているボイスをエディットします。

マルチライブラリーにある設定から変更をしたい場合は、パラメーターをエディットしましょう。Global/Multi (グローバル/マルチ)欄のGの列やPart (パート)欄の各パートの列にある、EQやエフェクトなどのパラメーターをクリックして値を変更してみましょう。



音がどのように変わるかについては、S90 XS/S70 XS本体の鍵盤を弾くか、画面下部にある鍵盤イラストをクリックして聞いてみましょう。



画面右端にあるパラメーターカテゴリー部(24ページ)のオープン/クローズボタン(①ボタン)をクリックすると、詳細パラメーター部が開きます。詳細パラメーター部では、現在エディット中のマルチに対してさらに細かいパラメーター設定をしたり、各パートに割り当てられたボイスのエディットができます。

**NOTE** S90 XS/S70 XSエディターでは、ボイスモードだけでなくマルチモードでもボイスエディットを行なえます。ボイスモードでは選択したボイスだけをエディットするのに対して、マルチモードでは1～16パートの音量バランスなどミキシング設定をしながら、各パートに割り当てられたボイスのパラメーターを調節することになります。いずれの場合でも、同じユーザーバンクにユーザーボイスとしてストア(保存)することになります。



## 8. 必要に応じて、エディットしたマルチやボイスを保存(ストア)します。

### 8-1 [編集]メニューの[ミキシングのストア]を選択して、エディットしたマルチ設定を保存します。

**NOTE** S90 XS/S70 XS本体で、[STORE]ボタンを押してMulti Store (マルチストア)画面を呼び出し、保存先ナンバーを選択したうえで[ENTER]ボタンを押すことでマルチ設定を保存できます。詳細は、S90 XS/S70 XS本体の取扱説明書を参照ください。

### 8-2 保存したいボイスが割り当てられているパートを選択し、[編集]メニューの[ボイスのストア]を選択してストア画面(46ページ)を開き、手順6-1、6-2、6-3、6-4 (8ページ)と同じ操作でボイスを保存します。

## 9. [ファイル]メニューから[名前を付けて保存]または[上書き保存]をクリックして、エディットしたデータをファイル(\*.X2E)に保存します。

エディットの最終状態およびユーザーバンクに保存(ストア)されたボイスデータを、まとめて1つのファイル(\*.X2E)に保存します。次回、同じファイルをS90 XS/S70 XSエディターで開くと、Auto Sync画面が自動的に開き、[Start]をクリックすることでS90 XS/S70 XS本体と同期をとれます。

- S90 XS/S70 XSエディターをStudio Managerから起動している場合は、Studio ManagerのセッションファイルにS90 XS/S70 XSエディターのデータを保存できます。
- Studio Connectionsに対応したDAWアプリケーションとStudio Managerを組み合わせお使いの場合は、S90 XS/S70 XSエディターのデータを、DAWアプリケーションのプロジェクトファイルの一部として保存できます。

# 各部の名称と機能

## 全体設定部



### ① ファイル、編集、バルク、ヘルプ

36ページをご参照ください。

### ② Voice (ボイス)/Multi (マルチ)モード切替

S90 XS/S70 XS本体のモードをボイスモードにするか、マルチモードにするかを設定します。ここでモードを切り替えるとS90 XS/S70 XS本体のモードが自動的に切り替わり、Auto Sync (オートシンク)画面が表示されます。Auto Sync画面上で必要な設定を行なったあと、S90 XS/S70 XS本体との同期をとることができます。

### ③ ONLINE/OFFLINE (オンライン/オフライン)

ここをクリックすることにより、ONLINE (オンライン)とOFFLINE (オフライン)を切り替えます。ONLINEが表示されている場合は、S90 XS/S70 XS本体とエディターが同期しており、どちらか一方で設定を変更したらもう一方の設定も自動的に変更されます。OFFLINEが表示されている場合は、両者が同期していないことを示しています。

エディターとS90 XS/S70 XS本体との通信状況により、自動的に切り替わる場合もあります。たとえば、ケーブルの接続が外れると自動的にOFFLINEに切り替わります。

#### ① ● ONLINE

エディターとS90 XS/S70 XS本体がオンライン状態にあることを示しています。クリックすることにより、オフラインに切り替わります。MIDIポートの設定が適切にできていない場合、またはケーブル接続が外れている場合などは、オンラインに設定することはできません。

#### ② ● OFFLINE

MIDIポートの設定やケーブル接続が正しく行なわれているにもかかわらず、エディターがオフライン状態にあることを示しています。OFFLINE (オフライン)をクリックするとAuto Sync (オートシンク)画面が開くので、必要な設定を行なったあと、[Start]をクリックすることによりデータ同期を行ないます。データ同期が完了するとAuto Sync画面が自動的に閉じられ、エディターはONLINE (オンライン)の状態になります。

**NOTE** Auto Sync (オートシンク)画面において、Global (グローバル)、Current (カレント)とVoice (ボイス)がOffに設定されていて、Auto Start (オートスタート)がOnに設定されている場合にOFFLINE (オフライン)をクリックすると、Auto Sync画面を開くことなく、エディターの状態がオフラインからオンラインに切り替わります。

#### ③ ● OFFLINE

MIDIポートの設定やケーブル接続が正しく行なわれていないために、エディターがオフライン状態にあることを示しています。OFFLINE (オフライン)をクリックするとAuto Sync (オートシンク)画面が開くので、接続を確認し、必要な設定を行なったあとに[Start]をクリックすることによりデータ同期を行ないます。データ同期が完了するとAuto Sync画面が自動的に閉じられ、エディターはONLINE (オンライン)の状態になります。

## ミキサー部 (Voice/Multi=Voiceの場合)

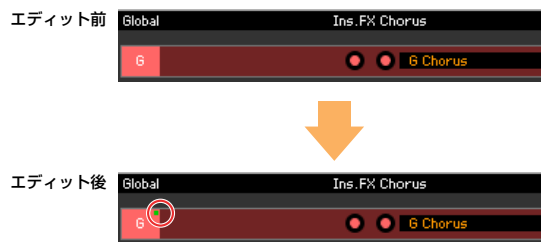


### ① Global (グローバル)

ボイスモードで、よく使われるエフェクトなどのパラメーターをエディットする部分です。「G」をクリックすることにより、下図のように背景が明るくなります。



**NOTE** ここで説明するパラメーターをエディットすると、エディットの状態をファイルとして保存するまでの間、「G」の右上に小さな四角のマークが表示されます。この表示は、詳細パラメーター部の緑色の[F]マーク表示(29ページ)と連動します。



### Ins.FX (インサーションエフェクト)

インサーションエフェクトのオン/オフを設定します。

### Chorus (コーラス)

コーラスのオン/オフを設定し、コーラスエフェクトのタイプを選択します。

### Reverb (リバーブ)

リバーブのオン/オフを設定し、リバーブエフェクトのタイプを選択します。

### MFX (マスターエフェクト)

マスターエフェクトのオン/オフを設定し、マスターエフェクトのタイプを選択します。

### MEQ Lo、Lo-M、Mid、Hi-M、Hi (マスターEQ)

マスターイコライザーのオン/オフを設定し、各パラメーターをエディットします。

### Volume (ボリューム)

全体のボリュームを調節します。

### ② [Voice]/[AD Part]タブ

ボイスかA/Dパートかを選ぶタブです。下図は、ボイスが選択されている状態です。



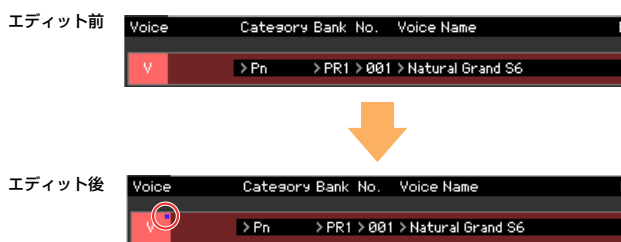
### ③ Voice (ボイス)

#### [Voice]タブを選択した場合

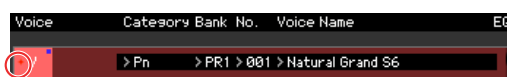
[Voice]タブ(②)を選択している場合、ボイスのパラメーターを表示/編集します。ボイスの列を選択すると背景は明るく表示されます。



**NOTE** ここで説明するボイスパラメーターをエディットすると、エディットの状態をファイルとして保存するまでの間、または、ボイスをストアするまでの間、「V」の右上に小さな四角のマークが表示されます。この表示は、詳細パラメーター部の青色の[V]マーク表示(29ページ)と連動します。



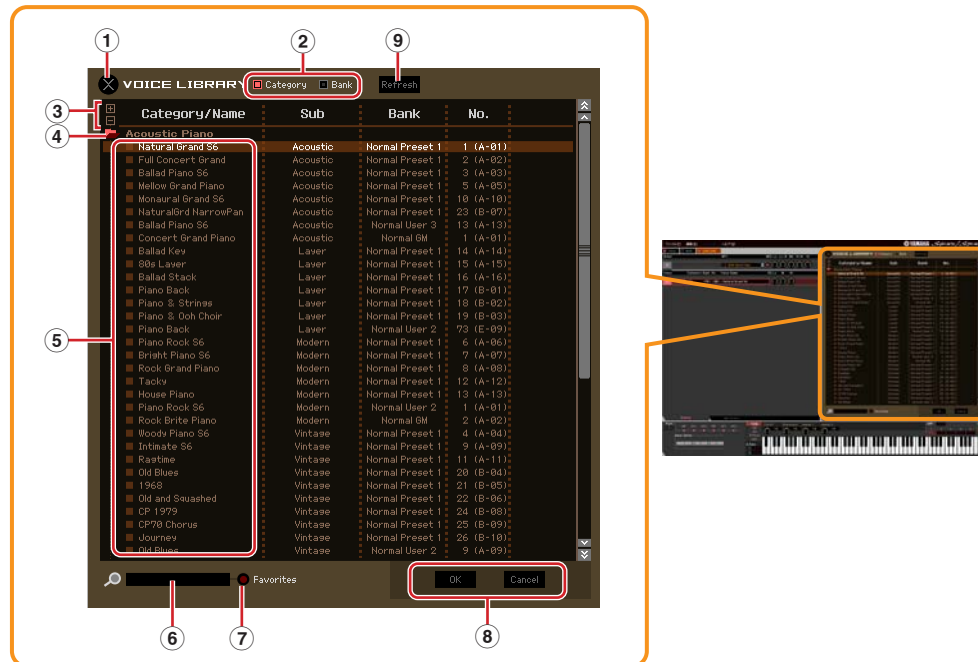
**NOTE** 「V」マークの左横にはMIDIモニターがあります。MIDIデータを受信すると、小さな赤色のマークが光ります。



#### Category、Bank No.、Voice Name (カテゴリー、バンクナンバー、ボイスネーム)

現在選択されているボイス(音色)を表示します。クリックするとVOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)が表示され、ボイスを選択できます。

#### VOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)



#### ① [×](終了)ボタン

ボイスの変更をすべてキャンセルし画面を閉じ、VOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)が開く前のボイスに戻ります。

#### ② [Category](カテゴリー)/[Bank](バンク)チェックボックス

ボイスを、カテゴリー別のフォルダーに分けるか、バンク別のフォルダーに分けるかを設定します。

③ **[+]/[-]ボタン**

[+]をクリックすると全フォルダーが開き、中にある全ボイスが表示されます。[-]をクリックすると全フォルダーが閉じます。

④ **フォルダー (カテゴリーまたはバンク)**

クリックすることにより、フォルダーを開いたり閉じたりします。

⑤ **ボイス**

フォルダーの中にあるボイス群です。ボイスをクリックすると、そのボイスが一時的に選択されます。ボイスをダブルクリックすると、そのボイスが実質的に選択され、VOICE LIBRARY (ボイスライブラリー) が閉じます。またユーザーバンク内では、ドラッグ&ドロップにより、ユーザーボイスの並び順を変えることができます。

各ボイス名の左にはチェックボックスが表示されます。お気に入りのボイスやよく使うボイスのチェックボックスをオンにしておけば、[Favorites](フェーバリッツ)チェックボックス(⑦)をオンにすることにより、それらのボイスだけを表示させることができ便利です。



**NOTE** ボイスの選択、コピー、貼り付け、ドラッグ、ドロップについては、コンピューターのOSと同じ方法でできます。

**NOTE** 右クリックにより、下記機能が使えます。

- 全フォルダーを開く/全フォルダーを閉じる
- ボイスをカテゴリー別のフォルダーに分けるか、バンク別のフォルダーに分けるかを設定する
- コピー / 貼り付け
- ボイスネームの変更
- Favoritesの全消去

⑥ **検索ボックス**

ここにキーワードを入れることで、使いたいボイスを探し出せます。

⑦ **[Favorites] (フェーバリッツ)チェックボックス**

このチェックボックスをオンにすることにより、自分のお気に入りのボイスやよく使うボイスだけをVOICE LIBRARY上に表示できます。お気に入りのボイスやよく使うボイスについては、各ボイスの左側のチェックボックスにチェックを入れて指定します。

⑧ **[OK]/[Cancel]ボタン**

[OK]ボタンをクリックすると、ボイスの選択が確定し、VOICE LIBRARY (ボイスライブラリー) が閉じます。[Cancel] (キャンセル)ボタンをクリックすると、ここでのボイス選択を取り消し元に戻した上でVOICE LIBRARYが閉じます。

⑨ **[Refresh] (リフレッシュ)ボタン**

エディターのVOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)を開いた状態で、S90 XS/S70 XS本体側でボイスストアを行なうと、エディターとS90 XS/S70 XS本体のボイス名が一致しない状態になります。その場合、このボタンをクリックすることでVOICE LIBRARYでのボイス名表示を最新状態に更新します。

**EQ Lo、Mi、Hi (パートEQ)**

現在選択されているボイスのイコライザー調整をノブで行ないます。

**Cho、Rev、Pan (コーラス、リバーブ、パン)**

現在選択されているボイスのコーラスセンド、リバーブセンド、パンをそれぞれのノブでエディットします。

**Volume (ボリューム)**

現在選択されているボイスの音量を設定します。

**ARP (アルペジオ)**

アルペジオ再生のオン/オフを切り替えます。

**[AD Part]タブを選択した場合**

[AD Part]タブ(②)を選択している場合、ボイスモードでのA/Dパートのパラメーターを表示/編集します。A/Dパートが選択されていると、背景は明るく表示されます。

**Cho、Rev、Pan (コーラス、リバーブ、パン)**

A/Dパートのコーラスセンド、リバーブセンド、パンをそれぞれのノブでエディットします。

**Volume (ボリューム)**

A/Dパートの音量を設定します。

**Output Select (アウトプットセレクト)**

A/Dパートの出力先を設定します。

表示	出力される端子	ステレオ/モノラル
L&R	OUTPUT LとR	ステレオ
asL&R	ASSIGNABLE OUTPUT LとR	ステレオ
asL	ASSIGNABLE OUTPUT L	モノラル
asR	ASSIGNABLE OUTPUT R	モノラル
vocoder	ボイスのインサージョンエフェクト	—

## ミキサー部 (Voice/Multi=Multiの場合)

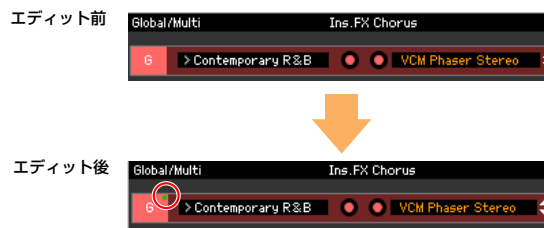


### 1 Global (グローバル)

マルチモードで、よく使われるエフェクトなどのパラメーターをエディットする部分です。「G」をクリックすることにより、下図のように背景が明るくなります。



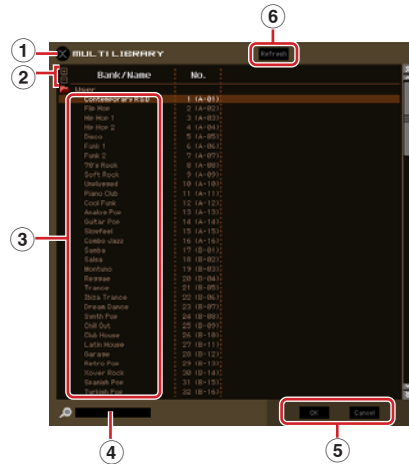
**NOTE** ここで説明するパラメーターをエディットすると、エディットの状態をファイルとして保存するまでの間、「G」の右上に小さな四角のマークが表示されます。この表示は、詳細パラメーター部の緑色の[F]マーク表示(29ページ)と連動します。



## マルチ設定

[Part1-16]タブが選択されている場合だけ、現在選択されているマルチ設定を表示します。クリックするとMULTI LIBRARY (マルチライブラリー)が表示され、マルチ設定を選択できます。

### MULTI LIBRARY (マルチライブラリー)



#### ① [×](終了)ボタン

マルチの変更をすべてキャンセルし画面を閉じ、MULTI LIBRARY (マルチライブラリー)が開く前のマルチに戻ります。

#### ② [＋]/[－]ボタン

[＋]をクリックすると全フォルダーが開き、中にある全マルチが表示されます。[－]をクリックすると全フォルダーが閉じます。

#### ③ マルチ設定

フォルダーの中にあるマルチ設定群です。マルチ設定のいずれかを、クリックして「OK」ボタンを押すかダブルクリックすると、そのマルチ設定が実質的に選択され、MULTI LIBRARY (マルチライブラリー)が閉じます。

**NOTE** 右クリックにより、下記機能が使えます。

- 全フォルダーを開く/全フォルダーを閉じる

#### ④ 検索ボックス

ここにキーワードを入れることで、使いたいマルチ設定を探し出せます。

#### ⑤ [OK]/[Cancel]ボタン

[OK]ボタンをクリックすると、ここでの設定が確定し、MULTI LIBRARY (マルチライブラリー)が閉じます。[Cancel] (キャンセル)ボタンをクリックすると、ここでの設定をすべて取り消し元に戻した上でMULTI LIBRARYが閉じます。

#### ⑥ [Refresh]ボタン

エディターのMULTI LIBRARY (マルチライブラリー)を開いた状態で、S90 XS/S70 XS本体側でマルチストアを行なうと、エディターとS90 XS/S70 XS本体のマルチ名が一致しない状態になります。その場合、このボタンをクリックすることでMULTI LIBRARYでのマルチ名表示を最新状態に更新します。

## Ins.FX (インサクションエフェクト)

インサクションエフェクトのオン/オフを設定します。

## Chorus (コーラス)

コーラスのオン/オフを設定し、コーラスエフェクトのタイプを選択します。

## Reverb (リバーブ)

リバーブのオン/オフを設定し、リバーブエフェクトのタイプを選択します。

## MXF (マスターエフェクト)

マスターエフェクトのオン/オフを設定し、マスターエフェクトのタイプを選択します。

## MEQ Lo、Lo-M、Mid、Hi-M、Hi (マスターEQ)

マスターイコライザーのオン/オフを設定し、各パラメーターをエディットします。

## Volume (ボリューム)

全体のボリュームを調節します。

## ② [Part 1-16]/[AD Part]タブ

パート1～16かA/Dパートかを選ぶタブです。下図は、パート1～16が選択されている状態です。



## ③ Part (パート)

### [Part 1-16]タブを選択した場合

[Part 1-16]タブ(②)を選択している場合、パート1～16のパラメーターを表示/編集します。選択しているパートの背景は明るく表示されます。下図ではパート1が選択されています。

**NOTE** 各パートで選択されているボイスのパラメーター (エレメントパラメーターなど)をエディットすると、そのボイスをユーザーボイスまたはミキシングボイスとしてストア(保存)するまでの間、またはエディットの状態をファイルとして保存するまでの間、「1」～「16」の右上に小さな四角のマークが表示されます。この表示は、詳細パラメーター部の青色の[V]マーク表示(29ページ)と連動します。



### Part (パートナンバー)

パートナンバーを表示します。

**NOTE** エディターがONLINE (オンライン)の状態では、エディターでの設定とS90 XS/S70 XS本体での設定はお互い連動しますが、パートの選択については連動しない場合があります。エディター側のパートナンバーとS90 XS/S70 XS側のパートナンバーを合わせる必要がある場合は、それぞれの操作でパートナンバーを変更してください。

### Mute/Solo (ミュート/ソロ)



#### ① Mute (ミュート)

各パートのミュートのオン/オフを切り替えます。

#### ② Solo (ソロ)

ソロパートを選びます。ソロは同時に1パートしかオンにできません。

### Category、Bank、No.、Voice Name (カテゴリー、バンク、ボイスナンバー、ボイスネーム)

各パートのボイス(音色)を表示します。クリックするとVOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)が表示され、ボイスを選択できます。VOICE LIBRARYについては、ボイスモードの場合と同じです。14ページをご参照ください。

### EQ Lo、Mi、Hi (パートEQ)

各パートのイコライザーをノブでエディットします。

### Ins.FX (インサーションエフェクトスイッチ)

インサーションエフェクトのオン/オフを切り替えます。

**NOTE** インサーションエフェクトは、同時に8パートまでオンにできます。

### Cho、Rev、Pan (リバーブ、コーラス、パン)

各パートのコーラスセンド、リバーブセンド、パンをそれぞれのノブでエディットします。

### Volume (ボリューム)

各パートの音量を設定します。

### Rcv Channel (レシーブチャンネル)

各パートのMIDI受信チャンネルを設定します。

Output Select (アウトプットセレクト)

各パートの出力先を設定します。

表示	出力される端子	ステレオ/モノラル
L&R	OUTPUT LとR	ステレオ
asL&R	ASSIGNABLE OUTPUT LとR	ステレオ
asL	ASSIGNABLE OUTPUT L	モノラル
asR	ASSIGNABLE OUTPUT R	モノラル
drum	*	*

\* エディット中のパートにノーマルボイスが割り当てられている場合、ここの表示は「L&R (dr)」となり、出力される端子は OUTPUT LとRでステレオ出力になります。エディット中のパートにドラムボイスが割り当てられている場合、ここの表示は「drum」となり、本体ボイスエディットモードのドラムキット各キーのOutput Selectで設定されている出力端子が有効になります。

ARP (アルペジオ)

各パートでのアルペジオ再生のオン/オフを切り替えます。

**NOTE** 同時にアルペジオオンにできるパートは、最大4つまでです。

[AD Part]タブを選択した場合

[AD Part]タブ(2)を選択している場合、マルチモードでのA/Dパートのパラメーターを表示/編集します。A/Dパートが選択されていると、背景は明るく表示されます。



Cho、Rev、Pan (コーラス、リバーブ、パン)

A/Dパートのコーラスセンド、リバーブセンド、パンをそれぞれのノブでエディットします。

Volume (ボリューム)

A/Dパートの音量を設定します。

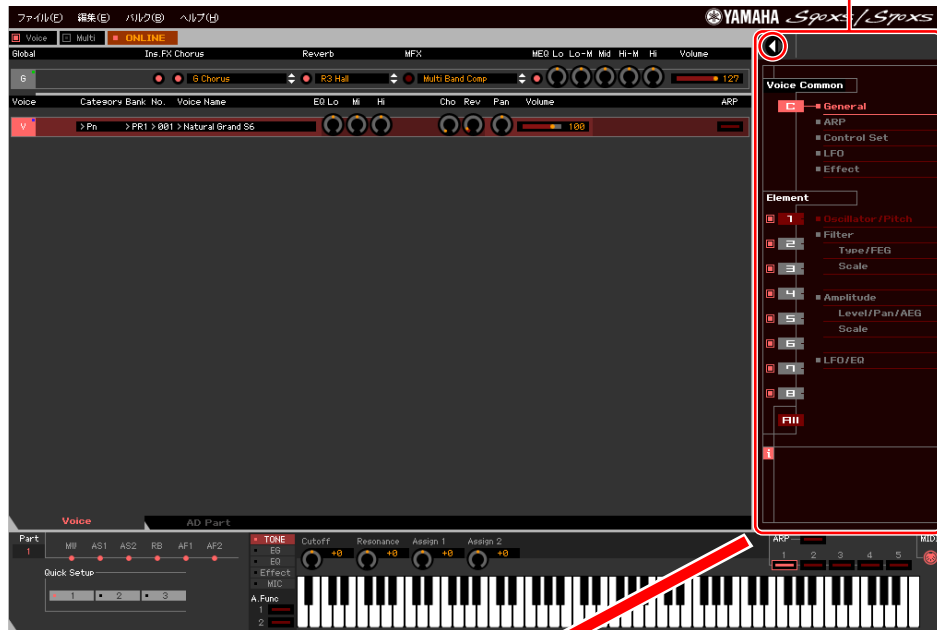
Output Select (アウトプットセレクト)

A/Dパートの出力先を設定します。選択できる出力先は、ボイスモードでのA/Dパートの場合と同じです(16ページ)。

## パラメーターカテゴリー部 (Voice/Multi=Voiceの場合)

画面右上にある **①** をクリックすることにより、現在選択されているパートの、さらに詳しい設定ができる詳細パラメーター部を呼び出せます。詳細パラメーター部を呼び出すことで、パラメーターカテゴリー部は画面中央まで移動します。

パラメーターカテゴリー部

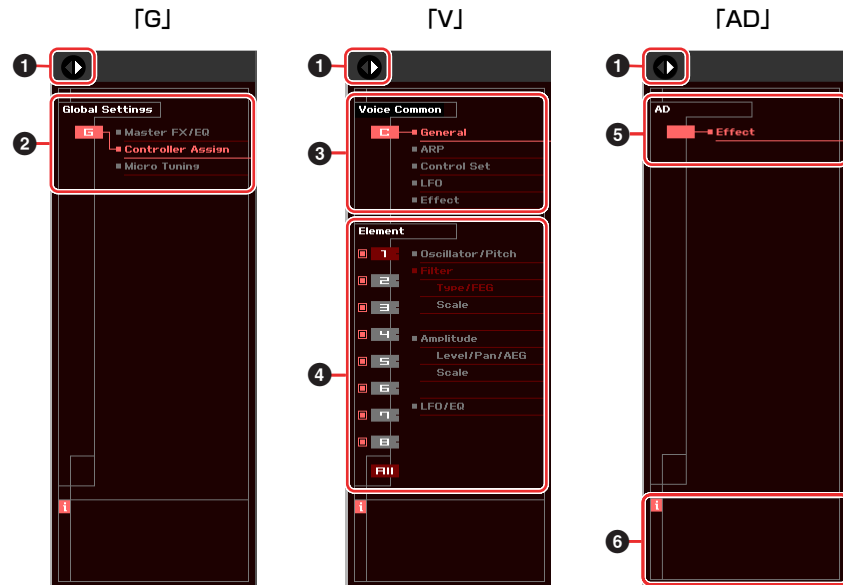


パラメーターカテゴリー部

詳細パラメーター部

ミキサー部で選択されたパートが、G、V、ADパートのいずれかによって、パラメーターカテゴリ部で表示されるカテゴリは下図のとおり、異なります。

「V」は[Voice]/[AD Part]タブで[Voice]が選ばれている場合に、「AD」は[Voice]/[AD Part]タブで[AD Part]が選ばれている場合にそれぞれ選択できます。「G」はタブ選択に関係なく、選択できます。



### ① オープン/クローズボタン



詳細パラメーター部の表示/非表示を行ないます。ボタンの左側が白色の場合 ① は、詳細パラメーター部が表示されないことを示します。クリックすると、詳細パラメーター部を表示します。ボタンの右側が白色の場合 ② は、詳細パラメーター部が表示されていることを示します。クリックすると、詳細パラメーター部を隠します。詳細パラメーター部の表示/非表示は、<Ctrl> + <←>, <Ctrl> + <→> (Macの場合はコマンドキー + <←>, コマンドキー + <→>)でも切り替えられます。

### ② Global Settings (グローバル設定)

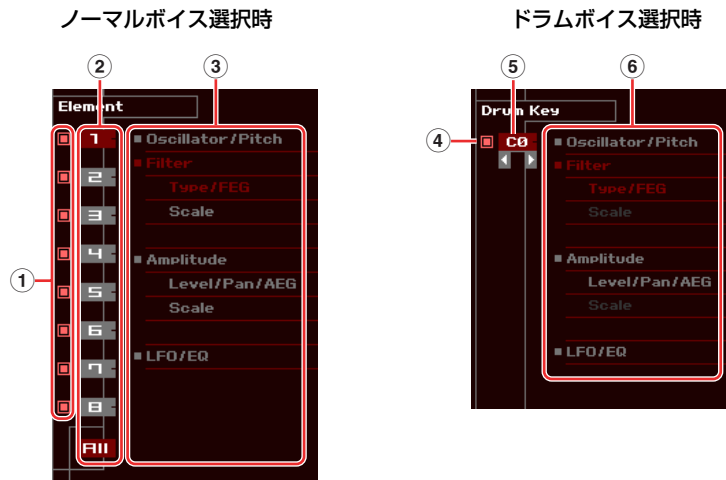
ミキサー部で「G」を選択しているときに表示されます。各カテゴリをクリックすると、そのカテゴリに属するグローバルパラメーター群が詳細パラメーター部に表示されます。

### ③ Voice Common (ボイスコモン)

ミキサー部で「V」を選択しているときに表示されます。各カテゴリをクリックすると、そのカテゴリに属するボイスコモンパラメーター群が、詳細パラメーター部に表示されます。

#### ④ Element (エレメント)またはDrum Key (ドラムキー)

ミキサー部で「V」を選択しているときに表示されます。ノーマルボイスが選択されている場合は Element (エレメント)が表示され、ドラムボイスが選択されている場合はDrum Key (ドラムキー)が表示されます。各カテゴリをクリックすると、そのカテゴリに属するボイスエレメントパラメーター群、またはドラムキーパラメーター群が詳細パラメーター部に表示されます。



##### ① エレメント用チェックボックス(ノーマルボイス選択時)

各エレメントをオン/オフします。

##### ② [1]～[8]、[All]ボタン(ノーマルボイス選択時)

エディットするエレメントを選択します。[All]をクリックすると、詳細パラメーター部に「Element Quick Setting」画面が表示され、全エレメントの主なパラメーターを1つの画面でまとめてエディットできるようになります。

##### ③ エレメントパラメーターカテゴリ (ノーマルボイス選択時)

エレメントパラメーターのカテゴリが表示されます。各カテゴリをクリックすると、そのカテゴリに属するボイスエレメントパラメーター群が、詳細パラメーター部に表示されます。

##### ④ ドラムキー用チェックボックス(ドラムボイス選択時)

各ドラムキーをオン/オフします。

##### ⑤ ドラムキー (ドラムボイス選択時)

キー表示の下にある三角形表示をクリックすることにより、エディットするドラムキーを選択します。

##### ⑥ ドラムキーパラメーターカテゴリ (ドラムボイス選択時)

ドラムキーパラメーターのカテゴリが表示されます。各カテゴリをクリックすると、そのカテゴリに属するドラムキーパラメーター群が、詳細パラメーター部に表示されます。

#### ⑤ AD

ミキサー部でAD Partを選択しているときに表示されます。詳細パラメーター部にはエフェクト関連のパラメーターが表示されます。

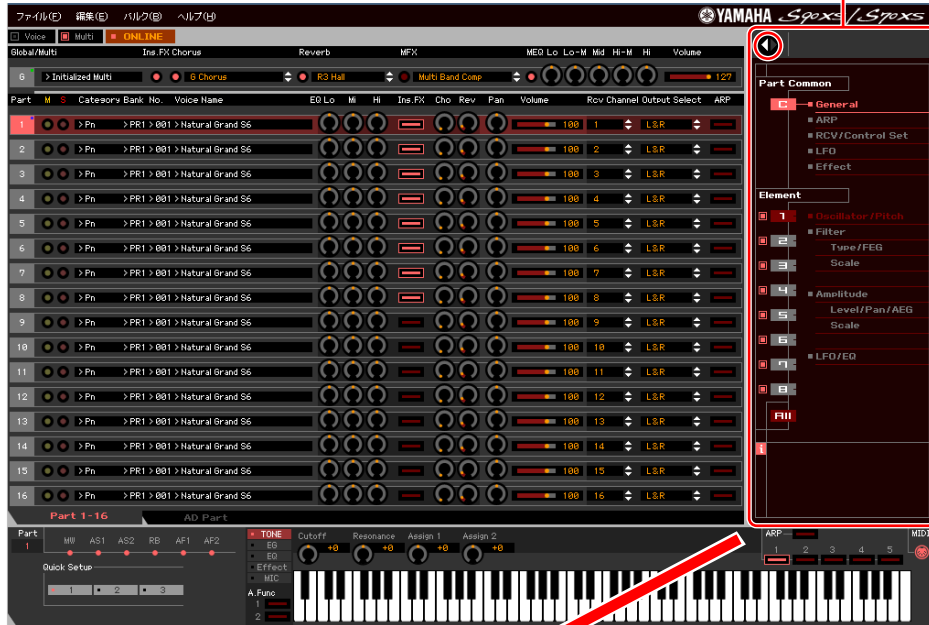
#### ⑥ *i* (インフォメーション表示)

マウスが指し示しているパラメーターやスイッチなどの詳しい情報を表示します。「*i*」をクリックすることで、インフォメーション表示のする/しないを切り替えられます。

## パラメーターカテゴリー部 (Voice/Multi=Multiの場合)

画面右上にある①をクリックすることにより、現在選択されているパートの、さらに詳しい設定ができる詳細パラメーター部を呼び出せます。詳細パラメーター部を呼び出すことで、パラメーターカテゴリー部は画面中央まで移動します。

パラメーターカテゴリー部

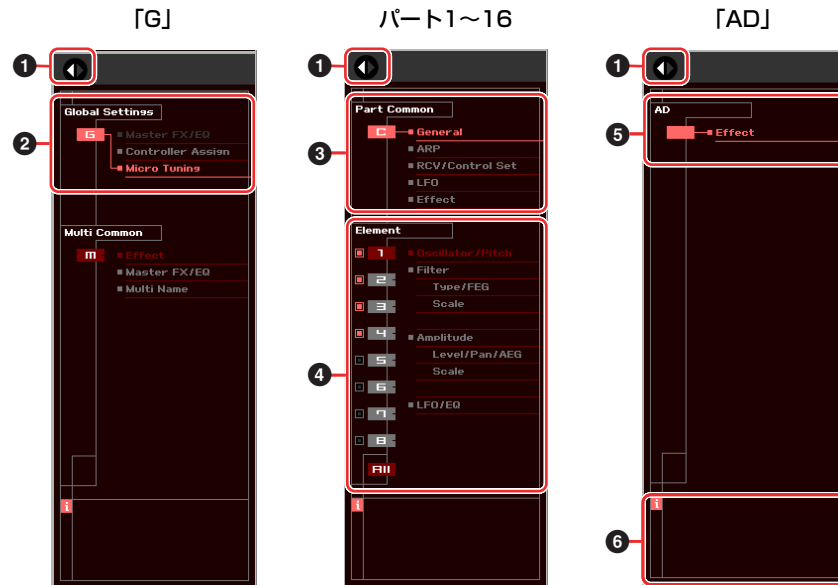


パラメーターカテゴリー部

詳細パラメーター部

ミキサー部で選択されたパートが、1～16、A/Dパートのいずれかによって、パラメーターカテゴリ部で表示されるカテゴリは下図のとおり、異なります。

1～16は[Part 1-16]/[AD Part]タブで[Part 1-16]が選ばれている場合に、「AD」は[Part 1-16]/[AD Part]タブで[AD Part]が選ばれている場合にそれぞれ選択できます。「G」はタブ選択に関係なく、選択できます。



## ① オープン/クローズボタン



Voice/Multi=Voiceの場合(22ページ)と同じです。

## ② Global Settings (グローバル設定)

ミキサー部で「G」を選択しているときに表示されます。各カテゴリをクリックすると、そのカテゴリに属するグローバルパラメーター群が詳細パラメーター部に表示されます。

## ③ Part Common (パート共通)

ミキサー部でパート1～16のいずれかを選択しているときに表示されます。各カテゴリをクリックすると、そのカテゴリに属する共通パラメーター群およびボイス共通パラメーターが、詳細パラメーター部に表示されます。

## ④ Element (エレメント)またはDrum Key (ドラムキー)

ミキサー部でパート1～16のいずれかを選択しているときに表示されます。各カテゴリをクリックすると、そのカテゴリに属するボイスエレメントパラメーター群またはドラムキーパラメーター群が、詳細パラメーター部に表示されます。各部の名称と機能については、[Voice]/[Multi]=[Voice]の場合(23ページ)と同じです。

## ⑤ AD

ミキサー部でAD Partを選択しているときに表示されます。詳細パラメーター部にはエフェクト関連のパラメーターが表示されます。

## ⑥ i (インフォメーション表示)

マウスが指し示しているパラメーターやスイッチなどの詳しい情報を表示します。「i」をクリックすることで、インフォメーション表示のする/しないを切り替えられます。




## 詳細パラメーター部 (Voice/Multi=Voiceの場合)

ミキサー部で選択されたボイスまたはグローバル設定の、詳細なパラメーター群を表示します。ここでは、パラメーターカテゴリ部に表示される各パラメーターに、どのようなパラメーター群が属するかを説明します。各パラメーターの説明については、S90 XS/S70 XS本体に付属する取扱説明書をご参照ください。



## エディット中の状態を示す3つのマーク

パラメーターをエディットすると画面右上に下記3種類のマークが表示されます。

-  ボイスエディットの状態がユーザーボイスとしてストア(保存)されていないことを示しています。ボイスのストア(46ページ)を実行することで表示が消えます。
-  グローバル設定に関するエディットの状態がストア(保存)されていないことを示しています。グローバルのストア(46ページ)を実行することで表示が消えます。
-  パラメーターの種類に関係なく、エディットの状態がファイルとしてセーブ(保存)されていないことを示しています。

**NOTE** これら、V、G、Fのマークは、ミキサー部の「V」、「G」の右上に表示される小さな四角のマークと連動して表示されます。V、Gマークはストア(保存)を実行することで表示が消えます。Fマークとミキサー部の「G」の右上に表示される小さな四角のマークは、ファイルへのセーブ(保存)を実行することで表示が消えます。V、G、Fマーク、ミキサー部の「V」の右上に表示される小さな四角のマーク、「G」の右上に表示される小さな四角のマーク、これらすべてのマークはファイルへのセーブ(保存)を実行することで表示が消えます。

## Global Settings (グローバルセッティング)

ミキサー部で「G」を選択すると表示されるパラメーターカテゴリで、下記のサブカテゴリから構成されます。

### Master FX/EQ (マスターエフェクト/EQ)

パラメーターカテゴリ部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にボイスモードでのマスターエフェクト/EQに関するパラメーター群が表示されます。S90 XS/S70 XS本体では、ユーティリティボイスセレクト画面にある「Master FX」、「Master EQ」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群に該当します。

### Controller Assign (コントローラーアサイン)

パラメーターカテゴリ部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にコントローラーアサインに関するパラメーター群が表示されます。S90 XS/S70 XS本体では、ユーティリティセレクト画面にある「Controller」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群に該当します。

### Micro Tuning (マイクロチューニング)

パラメーターカテゴリ部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にマイクロチューニングに関するパラメーター群が表示されます。S90 XS/S70 XS本体では、ユーティリティセレクト画面にある「Micro Tune」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群に該当します。

## Voice Common (ボイスコモン)

ミキサー部で「V」を選択すると表示されるパラメーターカテゴリです。このカテゴリに属するパラメーターでは、ボイスを構成する全エレメント/全ドラムキーに共通の設定を行ないます。Voice Common (ボイスコモン)は、下記のサブカテゴリから構成されます。

### General (ジェネラル)

パラメーターカテゴリ部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にボイスネームやボイスのピッチに関するパラメーターなど、さまざまなパラメーター群が表示されます。S90 XS/S70 XS本体では、ボイスエディットセレクト画面にある「Name」、「Play Mode」、「Filter / EG」、「3 Band EQ」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群に該当します。

### ARP (アルペジオ)

パラメーターカテゴリ部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にアルペジオに関するパラメーター群が表示されます。S90 XS/S70 XS本体では、ボイスエディットセレクト画面にある「Arpeggio」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群に該当します。なお、画面中央の「Individual ARP Parameters」にある、Bank/Category/Sub/Number/Nameと表記されているボックスをクリックすると、ARP LIBRARY (アルペジオライブラリー)画面が現われます。VOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)画面(14ページ)と同様の使い方で、アルペジオタイプを選択できます。

### Control Set (コントローラーセット)

パラメーターカテゴリ部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にコントローラーセットに関するパラメーター群が表示されます。S90 XS/S70 XS本体では、ボイスエディットセレクト画面にある「Controller」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群に該当します。

### LFO (ローフリクエンシーオシレーター)

パラメーターカテゴリ部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にLFOに関するパラメーター群が表示されます。S90 XS/S70 XS本体では、ボイスエディットセレクト画面にある「LFO」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群に該当します。ドラムボイスには、このパラメーターはありません。

### Effect (エフェクト)

パラメーターカテゴリ部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にエフェクトに関するパラメーター群が表示されます。S90 XS/S70 XS本体では、ボイスエディットセレクト画面にある「Effect」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群に該当します。

## Element (エレメント)またはDrum Key (ドラムキー)

ミキサー部で「V」を選択すると表示されるパラメーターカテゴリーです。ノーマルボイスが選択されている場合はElementが、ドラムボイスが選択されている場合はDrum Keyが表示されます。このカテゴリーに属するパラメーターでは、ボイスを構成する各エレメントまたはドラムキーに固有の設定を行ないます。下記のサブカテゴリーから構成されます。

**NOTE** Element (エレメント)表示の下に表示されているチェックボックス(1~8)、およびAllについては、[23ページ](#)をご参照ください。  
Drum Key (ドラムキー)表示の下に表示されているチェックボックス、およびドラムキー表示については、[23ページ](#)をご参照ください。

**NOTE** ボイスのエレメントパラメーターおよびドラムキーパラメーターは、すべてS90 XS/S70 XSエディター上でのみエディットできます。S90 XS/S70 XS本体ではエディットできません。

### Oscillator/Pitch (オシレーター /ピッチ)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にオシレーター /ピッチに関するパラメーター群が表示されます。

### Filter (フィルター)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にフィルターに関するパラメーター群が表示されます。

### Amplitude (アンプリチュード)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にアンプリチュードに関するパラメーター群が表示されます。

### LFO/EQ (ローフリケンシーオシレーター /イコライザー)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にLFO/EQに関するパラメーター群が表示されます。

## AD

ミキサー部で「AD」を選択すると表示されるパラメーターカテゴリーです。このカテゴリーに属するパラメーターでは、ボイスモードでのA/Dパートに関する設定を行ないます。下記のサブカテゴリーから構成されます。

### Effect (エフェクト)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にボイスモードでのA/Dパートにかかるエフェクト関連のパラメーター群が表示されます。

## 詳細パラメーター部 (Voice/Multi=Multiの場合)

ミキサー部で選択されたパートおよびパートに割り当てられているボイスの詳細なパラメーター群を表示します。ここでは、パラメーターカテゴリー部に表示される各パラメーターに、どのようなパラメーター群が属するかを説明します。各パラメーターの説明については、S90 XS/S70 XS本体に付属する取扱説明書をご参照ください。



V、M、G、Fマーク

## エディット中の状態を示す4つのマーク

パラメーターをエディットすると画面右上に下記4種類のマークが表示されます。

- ボイスエディットの状態がユーザーボイスまたはミキシングボイスとしてストア(保存)されていないことを示しています。ボイスのストア(46ページ)を実行することで表示が消えます。
- マルチエディットの状態がストア(保存)されていないことを示しています。ミキシングのストア(47ページ)を実行することで表示が消えます。
- グローバル設定に関するエディットの状態がストア(保存)されていないことを示しています。グローバルのストア(46ページ)を実行することで表示が消えます。
- パラメーターの種類に関係なく、エディットの状態がファイルとしてセーブ(保存)されていないことを示しています。

**NOTE** これら、V、M、G、Fのマークは、ミキサー部の「1」～「16」、「G」の右上に表示される小さな四角のマークと連動して表示されます。V、M、Gマークはストア(保存)を実行することで表示が消えます。Fマークとミキサー部の「G」の右上に表示される小さな四角のマークは、ファイルへのセーブ(保存)を実行することで表示が消えます。V、G、Fマーク、パート「1」～「16」の右上に表示される小さな四角のマーク、「G」の右上に表示される小さな四角のマーク、これらすべてのマークはファイルへのセーブ(保存)を実行することで表示が消えます。

## Global Settings (グローバルセッティング)

ミキサー部で「G」を選択すると表示されるパラメーターカテゴリーで、下記のサブカテゴリーから構成されます。

### Controller Assign (コントローラーアサイン)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にコントローラーアサインに関するパラメーター群が表示されます。S90 XS/S70 XS本体では、ユーティリティセレクト画面にある「Controller」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群に該当します。

### Micro Tuning (マイクロチューニング)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にマイクロチューニングに関するパラメーター群が表示されます。S90 XS/S70 XS本体では、ユーティリティセレクト画面にある「Micro Tune」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群に該当します。

## Multi Common (マルチコモン)

ミキサー部で「G」を選択すると表示されるパラメーターカテゴリーで、下記のサブカテゴリーから構成されます。

### Effect (エフェクト)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にマルチモードでのエフェクトに関するパラメーター群が表示されます。S90 XS/S70 XS本体では、マルチコモンエディットセレクト画面にある「Effect」を選択して呼び出される画面上の、「Reverb」「Chorus」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群に該当します。

### Master FX/EQ (マスターエフェクト/EQ)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にマルチモードでのエフェクトに関するパラメーター群が表示されます。マスターエフェクトについては、S90 XS/S70 XS本体のマルチコモンエディットセレクト画面にある「Effect」を選択して呼び出される画面上の、「Master」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群に該当します。マスターEQについては、S90 XS/S70 XS本体のマルチコモンエディットセレクト画面にある「Master EQ」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群に該当します。

### Multi Name (マルチネーム)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にマルチの名称をエディットする画面が表示されます。S90 XS/S70 XS本体では、マルチコモンエディットセレクト画面にある「Name」を選択して呼び出される画面に該当します。

## Part Common (パートコモン)

ミキサー部で「1」～「16」のいずれかを選択すると表示されるパラメーターカテゴリーで、下記のサブカテゴリーから構成されます。

### General (ジェネラル)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、現在選択されているパートに関するパラメーター (エディットすることで画面右上に「M」マークが表示されるもの)や、パートに割り当てられているボイスに関するパラメーター (エディットすることで画面右上に「V」マークが表示されるもの)など、さまざまなパラメーター群が詳細パラメーター部に表示されます。

### ARP (アルペジオ)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、現在選択されているパートに割り当てられているアルペジオに関するパラメーター群が詳細パラメーター部に表示されます。S90 XS/S70 XS本体では、マルチコモンエディットセレクト画面の「Arpeggio」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群、およびマルチエディットセレクト画面の「Arpeggio」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群に該当します。なお、画面中央の「Individual ARP Parameters」にある、Bank/Category/Sub/Number/Nameと表記されているボックスをクリックすると、ARP LIBRARY (アルペジオライブラリー)画面が現われます。VOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)画面(14ページ)と同様の使い方で、アルペジオタイプを選択できます。

### RCV/Control Set (レシーブ/コントロールセット)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、現在選択されているパートでのMIDIメッセージの受信に関するパラメーター群、およびコントロールセットに関するパラメーター群が、詳細パラメーター部に表示されます。S90 XS/S70 XS本体では、マルチエディットセレクト画面の「Rcv Sw」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群が該当します。

### LFO (ローフリケンシーオシレーター)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、現在選択されているパートに割り当てられているボイスのLFOに関するパラメーター群が、詳細パラメーター部に表示されます。現在選択されているパートにドラムボイスが割り当てられている場合は、このパラメーターは無効です。

### Effect (エフェクト)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、現在選択されているパートでのインサクションエフェクトに関するパラメーター群や、全パートに共通にかかるシステムエフェクトに関するパラメーター群が、詳細パラメーター部に表示されます。

## Element (エレメント)またはDrum Key (ドラムキー)

ミキサー部で「1」～「16」のいずれかを選択すると表示されるパラメーターカテゴリーです。現在選択されているパートにノーマルボイスが割り当てられている場合はElementが、ドラムボイスが割り当てられている場合はDrum Keyが表示されます。このカテゴリーに属するパラメーターでは、ボイスを構成する各エレメントまたはドラムキーに固有の設定を行ないます。

詳細は、[Voice]/[Multi]=[Voice]の場合と同じです(28ページ)。

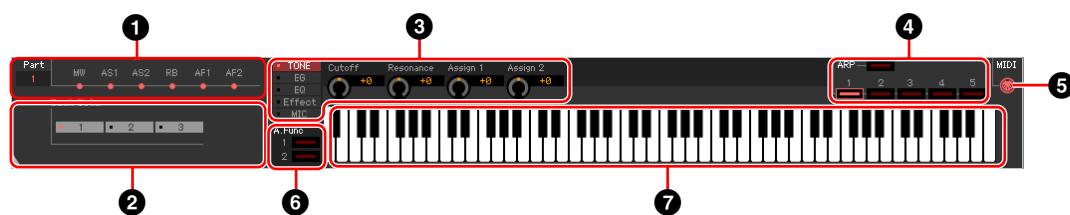
## AD

ミキサー部で「AD」を選択すると表示されるパラメーターカテゴリーです。このカテゴリーに属するパラメーターでは、マルチモードでのA/Dパートに関する設定を行ないます。下記のサブカテゴリーから構成されます。

### Effect (エフェクト)

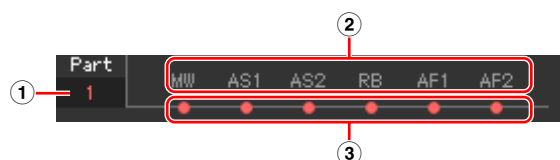
パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にマルチモードでのA/Dパートにかかるエフェクト関連のパラメーター群が表示されます。

## 下部



## ① コントローラー表示

S90 XS/S70 XSに装備されているコントローラーのうち、どれがRCV/Control Set画面にあるコントローラーセットのControl Source (コントロールソース) として設定されているかを表示しています。



## ① Part (パート)

現在どのパートのコントローラーセットの設定が表示されているかを示します。[Voice]/[Multi]=[Voice]の場合は「1」で固定表示、[Voice]/[Multi]=[Multi]の場合は現在選択されているパートの番号が表示されます。

## ② コントロールソース

左から順に、現在選択されているパート(①)のコントローラーセット1～6のコントロールソース(コントローラー)を表示します。

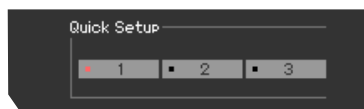
表示名	コントロールソース名
PB	ピッチベンドホイール
MW	モジュレーションホイール
AT	鍵盤のアフタータッチ
FC	フットコントローラー
FS	フットスイッチ
RB	リボンコントローラー
BC	プレスコントローラー
AS1	ASSIGN 1ノブ
AS2	ASSIGN 2ノブ
FC2	フットコントローラー 2
AF1	ASSIGNABLE FUNCTION 1ボタン
AF2	ASSIGNABLE FUNCTION 2ボタン

## ③ オン/オフ表示

このランプがオンの場合、該当するコントローラー (Control Source)に任意の機能(Control Destination)が割り当てられていることを示しています。オフの場合は機能が割り当てられていないことを示しています。

## ② Quick Setup (クイックセットアップ)

S90 XS/S70 XS本体のMIDIに関するさまざまなパラメーター設定を、ワンタッチで変更する機能です。



「1」～「3」の3種類のテンプレートの中から1つを選択します。S90 XS/S70 XS本体では、ユーティリティセレクト画面中の「Quick Set」を選択して呼び出される画面の1ページ目にあるQuick Setupパラメーターに該当します。

**NOTE** Quick Setupで設定されるパラメーターは、本体ユーティリティ設定(42ページ)で編集できます。

## ③ ノブ

S90 XS/S70 XS本体にあるノブと同じ働きをします。



### ① [TONE]/[EG]/[EQ]/[Effect]/[MIC]

S90 XS/S70 XSパネル上のノブの左にあるノブファンクションボタンと同じ働きをします。

### ② ノブ1～4

S90 XS/S70 XSパネル上にある4つのノブと同じ働きをします。

## ④ ARP (アルペジオ)

アルペジオの設定(オン/オフおよび1～5の切替)をします。

## ⑤ MIDIモニター



MIDIモニター機能をオン/オフします。このMIDI端子アイコンをオンすることにより、S90 XS/S70 XSエディターを経由してS90 XS/S70 XS本体に入力されるMIDIノートオン/オフが、エディター下部にある鍵盤イラストに反映されます。

## ⑥ [A.Func] (アサイナブルファンクション)ボタン

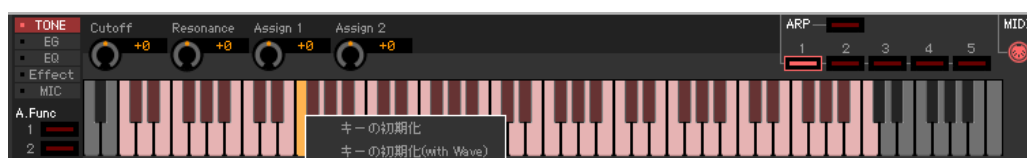
ノーマルボイスエレメントのOscillator/Pitch (オシレーター / ピッチ)画面にあるXA Control/パラメーターの設定値「all AF off」「AF1 on」「AF2 on」に関連するボタンです。詳細は、S90 XS/S70 XS本体付属の取扱説明書をご参照ください。

## ⑦ 鍵盤イラスト

クリックまたはドラッグされた鍵盤に該当するノートオン/オフのMIDIメッセージは、エディター設定画面(39ページ)のMIDI OUTで設定されたポート経由で、コンピューター外部に送られます。

**NOTE** 鍵盤をクリックしたときのペロシティーは、ファイルメニューの「エディター設定」で呼び出されるエディター設定画面のKeyboard Velocity (41ページ)で設定します。

**NOTE** ドラムボイスをエディットしている場合、右クリックするドラムキーの初期化ができます。「キーの初期化」をクリックすると、ウェーブフォーム以外のドラムキーの設定が初期化され、「キーの初期化(with Wave)」をクリックすると、ウェーブフォームも含めたドラムキーの設定が初期化されます。



# S90 XS/S70 XSEディターの基本操作

S90 XS/S70 XSEディターの基本的な操作について説明します。

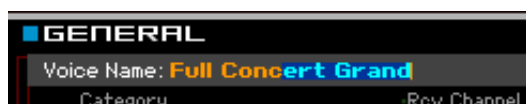
## ボイス名を編集する

VOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)、GENERAL (ジェネラル)画面、Store (ストア)画面でボイス名の編集ができます。

VOICE LIBRARY (14ページ)では、ユーザーボイスまたはミキシングボイスを選びさらにクリックすると、ボイス名が編集できるようになります。編集後は、<Enter>キーを押すかカーソルを別のパラメーターに移して編集結果を確定します。<Esc>キーを押せば編集結果をキャンセルできます。

■ NaturalGrd NarrowPan	Acoustic	Normal Preset 1	23 (B-07)
■ Full Concert Grand	Acoustic	Normal User 3	13 (A-13)
■ Concert Grand Piano	Acoustic	Normal GM	1 (A-01)
■ Ballad Key	Layer	Normal Preset 1	14 (A-14)
■ 80s Layer	Layer	Normal Preset 1	15 (A-15)

GENERAL画面(下図)とStore画面(46ページ)では、「Voice Name」と表示されているテキスト入力ボックスにカーソルを置くことで、自由にボイス名を編集できます。編集後は、<Enter>キーを押すかカーソルを別のパラメーターに移して編集結果を確定します。



## ボイスを探す/アルペジオタイプを探す/マルチを探す



VOICE LIBRARY画面(14ページ)、MULTI LIBRARY画面(18ページ)、ARP LIBRARY画面の下にある検索ボックスにキーワードを入れることにより、それぞれボイス、マルチ設定(ミキシング設定)、アルペジオタイプを探し出すことができます。また、インポート画面(37ページ)の下にある検索ボックスも、インポートしたいボイスを探すために使えます。

## 数値を入れる



上図のような数値ボックスをダブルクリックすると、数値入力が可能になります。数値編集後は、<Enter>キーを押すかカーソルを別のパラメーターに移して編集結果を確定します。<Esc>キーを押せば編集結果をキャンセルできます。また数値ボックスをクリックしたあと、カーソルキーまたは<Page Up>/<Page Down>キーを押すことで数値変更することもできます。

Windowsでは<Ctrl>キーを押した状態で数値ボックスをクリックすることにより、数値を初期値に戻せます。

Macintoshでは、コマンドキーを押した状態で数値ボックスをクリックすることにより、数値を初期値に戻せます。

**NOTE** パラメーターによっては、マウスによる数値編集だけ可能で、数値ボックスをダブルクリックしても数値入力ができない場合があります。

## パラメーターの設定値を選ぶ



パラメーターのボックスをクリックするとリストボックスが表示されるので、その中から設定値を選びます。また、[▲]/[▼]ボタンをクリックすると前の値/次の値に変わります。

## ノブで数値を変更する



図のようなノブでは、ドラッグしたりクリックすることでパラメーター値を編集できます。クリックしたあと、カーソルキーまたは<Page Up>/<Page Down>キーを押すことで数値変更することもできます。細かい設定をするには、<Shift>キーを押しながらドラッグします。

エディター設定画面(39ページ)のKnob GuideパラメーターやKnob Mouse Controlパラメーターを設定することで、ノブの操作方法を変更できます。Windowsでは、<Ctrl>キーを押した状態で数値ボックスをクリックすることにより、数値を初期値に戻せます。Macintoshでは、コマンドキーを押した状態で数値ボックスをクリックすることにより、数値を初期値に戻せます。

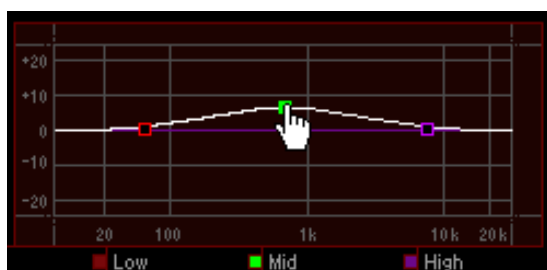
## スライダーで数値を変更する



図のようなスライダーでは、ドラッグしたりクリックしたりすることでパラメーター値を編集できます。クリックしたあと、カーソルキーまたは<Page Up>/<Page Down>キーを押すことで数値変更することもできます。細かい設定をするには、<Shift>キーを押しながらドラッグします。

エディター設定画面(39ページ)のSlider Mouse Controlパラメーターを設定することで、スライダーの操作方法を変更できます。Windowsでは、<Ctrl>キーを押した状態でスライダーをクリックすることにより、数値を初期値に戻せます。Macintoshでは、コマンドキーを押した状態でスライダーをクリックすることにより、数値を初期値に戻せます。

## グラフ上で数値を変更する



図のようなグラフでは、「□」をドラッグすることでパラメーター値を編集できます。

Windowsでは、<Ctrl>キーを押した状態で「□」をクリックすると、クリックされた「□」の値が初期値に戻ります。<Ctrl>キーを押した状態でグラフ内の「□」以外の部分をクリックした場合は、グラフ全体が初期化されます。

Macintoshでは、コマンドキーを押した状態で「□」をクリックすると、クリックされた「□」の値が初期値に戻ります。コマンドキーを押した状態でグラフ内の「□」以外の部分をクリックした場合は、グラフ全体が初期化されます。

# メニュー

## [ファイル]メニュー

ファイル(F)	編集(E)	バルク(B)
新規作成(N)		Ctrl+N
開く(O)...		Ctrl+O
上書き保存(S)		Ctrl+S
名前を付けて保存(A)...		
インポート(I)...		Ctrl+I
エディター設定(U)...		
本体ユーティリティ(H)...		

### 新規作成

現在開いているファイルを閉じ、ミキシングやボイスの設定が初期状態の新しいファイルを作成します。

### 開く...

既存のファイルを開きます。選択できるファイル形式は、以下のとおりです。

- S90 XS/S70 XS Editor (.X2E)
- S90 ES Multi Part Editor (.M6E)
- S90 XS/S70 XS All Files (.X2A)



S90 XS/S70 XSエディター上で編集できるのは、1ファイルだけです。そのため、「新規作成」やファイルの「開く」を実行すると、現在編集中のミキシングデータやボイスデータは消えてしまいます。大切なデータは、ファイルとして保存しておきましょう。

### 上書き保存

開いているファイルを上書き保存します。

### 名前をつけて保存...

ファイルに名前をつけて保存します。現在開いているファイルを別名で保存することができます。選択できるファイルの種類は、S90 XS/S70 XS Editor (.X2E)だけです。

## インポート

他のファイルからボイスデータをインポートします。

まずファイル選択ボタン(③)をクリックし、インポートするボイスデータを含んだファイル呼び出します。インポート元のファイル内容表示(⑧)上で、インポートするデータを選択します。そのあと、インポート先のファイル内容表示(⑨)上で、インポート先となるS90 XS/S70 XSエディターのボイスナンバー /ボイスバンクを選択します。一度にインポートできるデータは、1ボイス(バンク/カテゴリー)、複数ボイス(バンクの場合のみ)、1フォルダー(バンクの場合のみ)です。1ボイスをインポートする場合は、インポート先も1ボイスナンバーを選択します。複数ボイスをインポートする場合は、インポート先で選択した1ボイスナンバーを先頭に、複数ボイスがインポートされます。フォルダーごとインポートする場合は、インポート先も1フォルダー(バンクの場合のみ)を選択する必要があります。

最後に[Import]ボタンをクリックすると、インポートが実行されます。

選択できるファイル形式は、以下のとおりです。

- S90 XS/S70 XS Editor (.X2E)
- MOTIF XS Editor (.XOE)
- MOTIF-RACK XS Editor (.X1E)
- S90 ES Voice Editor (.S7E)
- S90 ES Multi Part Editor (.M6E)
- S90 XS/S70 XS All (.X2A)
- S90 XS/S70 XS All Voice (.X2V)
- MOTIF XS All (.XOA)
- MOTIF XS All Voice (.XOV)



### ① [×](終了)ボタン

この画面から抜けてインポートを終了します。

### ② File Name (ファイルネーム)

現在開いているファイルの名前を表示します。

### ③ ファイル選択ボタン

クリックするとファイルを選択するダイアログボックスを表示します。

### ④ [Category](カテゴリー)/[Bank](バンク)チェックボックス

ファイル内容表示(⑧)でカテゴリー別に表示するかバンク別に表示するか選択します。

**⑤ [Import](インポート)ボタン**

ファイル内容表示(③)で選択したデータを、インポート先のファイル内容表示(⑨)で選択した場所にインポートします。

**NOTE** [Import]ボタンを使わなくても、インポート元のファイル(③)をドラッグして、インポート先(⑨)にドラッグすることでも、インポートできます。

**NOTE** ノーマルボイスをユーザードラムボイスバンクにインポートすることはできません。同様に、ドラムボイスをユーザーノーマルボイスバンクにインポートすることはできません。また、インポート先としてプリセットボイスバンクを設定することはできません。

**⑥ [+] / [-] ボタン**

[+]ボタンをクリックすると、ファイル内容表示(③)、S90 XS/S70 XSEディター内容表示(⑨)で、カテゴリやバンクの内容をすべて表示します。

[-]ボタンをクリックすると、ファイル内容表示(③)、S90 XS/S70 XSEディター内容表示(⑨)で、カテゴリやバンクの内容をすべて隠します。

**⑦ フォルダー**

クリックすると、ファイル内容表示(③)、S90 XS/S70 XSEディター内容表示(⑨)で、カテゴリやバンクの内容を表示したり隠したりします。

**⑧ インポート元のファイル内容表示**

ファイル選択ボタン(③)をクリックして選択したファイル内にあるボイスまたはフォルダー (バンク/カテゴリ)を表示します。ここで、インポートするボイス/フォルダーを選択します。

右クリックするとメニューを表示して、全フォルダーを開く、全フォルダーを閉じる、カテゴリ表示にする、バンク表示にするなどの操作ができます。

**⑨ インポート先(S90 XS/S70 XSEディター)のファイル内容表示**

現在編集集中のS90 XS/S70 XSEディターファイル内にあるボイス/バンクを表示します。ここで、インポート先のボイス/バンクを選択します。

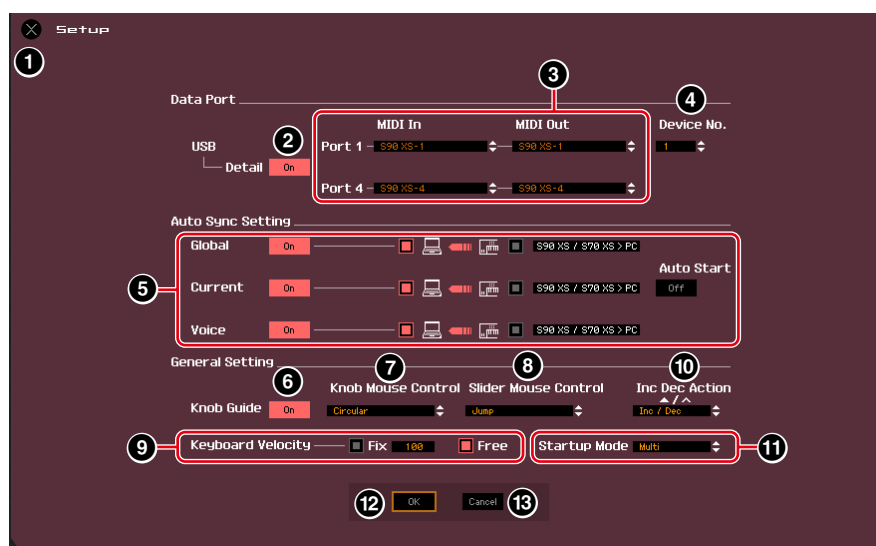
右クリックするとメニューを表示して、全フォルダーを開く、全フォルダーを閉じるなどの操作ができます。

**⑩ 検索ボックス**

データを名前で検索します。

## エディター設定

S90 XS/S70 XSエディターの設定を行ないます。画面上のすべての設定が済んだら、[OK]ボタンをクリックします。



### 1 [×](終了)ボタン

設定を反映せずに終了します。[Cancel]ボタン(13)と同じです。

### 2 [Detail] (ディテール)ボタン

[Detail]ボタンをOnにすることにより、エディターが使用するMIDI入出力ポートを個別に設定できます。ポート名をコンピューター上やDAWアプリケーション上などで変更した場合は、この設定を行なう必要があります。ポート名を変更していない場合は、[Detail]ボタンはOffのままで構いません。

### 3 MIDI

S90 XS/S70 XS本体と通信するMIDIポートを選択します。

[Detail]ボタン(2)をOffに設定している場合、USB Deviceの欄で、「S90 XS」あるいは「S70 XS」を選択してください。[Detail]ボタン(2)をOnに設定している場合、MIDI InはS90 XS/S70 XSのポート1とポート4を、MIDI OutはS90 XS/S70 XSのポート1とポート4を選びます。

**NOTE** ポート名の先頭に「!」マークが表示される場合があります。これはエディターで前回使用したポートが見つからない、またはエディターで必要となるポートが一部しか設定されていないことを示しています。ホストアプリケーションでのMIDIポート設定を確認してください。

**NOTE** ここでの設定とは別に、あらかじめホストアプリケーション側のポート設定をする必要があります。単独のアプリケーションとしてStudio Managerを起動した場合は、「S90 XS/S70 XSエディターの起動」(5ページ)をご参照ください。Studio Connections対応DAWアプリケーションのプラグインとしてStudio Managerを起動した場合は、DAWアプリケーションの取扱説明書をご参照ください。

**NOTE** ここでの設定とは別に、S90 XS/S70 XS本体側もMIDIメッセージの入出力の設定をUSB接続にする必要があります。S90 XS/S70 XSのユーティリティーモードのMIDIに関する設定をする画面で設定してください。詳しくはS90 XS/S70 XS本体の取扱説明書をご参照ください。

### 4 Device No. (デバイスナンバー)

S90 XS/S70 XS本体のユーティリティーモードで設定したDevice No.と同じ番号を設定します。

本体のDevice No.の設定が「All」のときは、「1」を設定してください。

## ⑤ Auto Sync Setting (オートシンク セットアップ)

エディターをOFFLINE状態からONLINE状態に切り替えるときの、S90 XS/S70 XS本体とのデータ同期の方法を設定します。実際の同期は、[OFFLINE]ボタンをクリックしたときやS90 XS/S70 XSエディターを起動したとき、新しいファイルを開いたときなどに自動的に表示されるAuto Sync (オートシンク)画面上で行なわれます。

### Global (グローバル)

グローバルデータ(4ページ)を同期させるかどうか、および同期の方向(どちらの状態に合わせるか)を設定します。

### Current (カレント)

カレントデータ(4ページ)を同期させるかどうか、および同期の方向(どちらの状態に合わせるか)を設定します。

### Voice (ボイス)

ユーザーボイスデータ(4ページ)を同期させるかどうか、および同期の方向(どちらの状態に合わせるか)を設定します。

### Auto Start (オートスタート)

Onに設定すると、下記条件でAuto Sync (オートシンク)画面が開いたときに、データ同期が自動的に開始されます。

- S90 XS/S70 XS本体ユーティリティモードでのMIDI IN/OUT設定やコンピューター上でのポート設定、ケーブルによる接続が正しく行なわれている状態で、S90 XS/S70 XSエディター画面上の[OFFLINE]ボタンをクリックしたとき
- ケーブル接続が正しく行なわれている状態で、S90 XS/S70 XS本体やコンピューター上での設定が、正しい状態から正しい状態に変更されたとき
- S90 XS/S70 XS本体やコンピューター上での設定が正しく行なわれている状態で、ケーブル接続が正しくない状態から正しい状態に変更されたとき

**NOTE** Auto Sync画面(50ページ)でも、Auto Sync Setting (オートシンクセットアップ)の設定ができます。ここでのAuto Sync Settingの設定と連動しています。



注意

Auto Startをオンにすると、決められたタイミング(50ページ)でデータ同期が自動的に開始されるため、受信する側で選択中のデータは、上書きされて消えてしまいます。大切なデータは、コンピューター上でファイルとして保存するか、S90 XS/S70 XS本体に保存しておきましょう。

## ⑥ Knob Guide (ノブガイド)

ノブを操作中にガイドを表示するかどうかを設定します。



Knob Guide: On



Knob Guide: Off

## ⑦ Knob Mouse Control (ノブマウス コントロール)

右図のようなノブの操作方法を設定します。



### Circular (サーキュラー)

ノブ操作エリア内のどこをクリックしても、数値がクリックした場所にジャンプします。また、そこからノブの形にそって円を描くようにドラッグすることにより、数値をコントロールします。

### Relative Circular (リレーティブ サーキュラー)

クリックしてもジャンプせず、現在の値からノブの形にそって円を描くようにドラッグすることにより、数値をコントロールします。

### Linear (リニア)

ノブ操作エリアでドラッグするとマウスカーソルが消え、上、または右に移動すると値が増え、下または左に移動すると値が減ります。

**⑧ Slider Mouse Control (スライダーマウス コントロール)**

右図のようなスライダーの操作方法を設定します。

**Jump (ジャンプ)**

つまみ以外のスライダーバー上をクリックすると、クリックした位置につまみがジャンプします。

**Touch (タッチ)**

つまみをドラッグすることによりスライダーを動かします。つまみ以外のスライダーバー上をクリックしてもつまみは移動しません。

**Ramp (ランプ)**

つまみ以外のスライダーバー上をクリックすると、クリックしている間だけつまみが移動します。

**Relative (リレーティブ)**

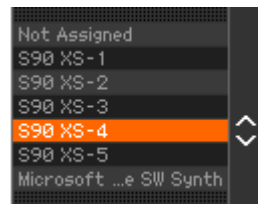
つまみ以外のスライダーバー上をドラッグするとマウスカーソルが消え、左右に動かすことにより数値をコントロールします。現在の値から相対的に移動します。

**⑨ Keyboard Velocity (キーボードベロシティ)**

鍵盤イラスト(33ページ)をクリックしたときに出力される、MIDIノートのベロシティを設定します。[Fix]をオンにした場合、ベロシティは一定の値に固定されます。固定されるベロシティ値は、[Fix]の横の数値ボックスで設定できます。また、[Free]をオンにした場合、クリックする鍵盤の上下の位置によって、ベロシティの値は変更されます。下の位置をクリックするほど値は大きくなります。

**⑩ Inc/Dec Action (インク/デックアクション)**

下図のようなパラメーターボックスにある[▲]/[▼]/[▲]/[▼]ボタンの動作を設定します。

**Inc/Inc:**

[▲]は数値の1つ増加、[▲]は1つ下の項目への移動、としてそれぞれ動作します。

**Inc/Dec:**

[▲]は数値の1つ増加、[▲]は1つ上の項目への移動、としてそれぞれ動作します。

**Dec/Inc:**

[▲]は数値の1つ減少、[▲]は1つ下の項目への移動、としてそれぞれ動作します。

**Dec/Dec :**

[▲]は数値の1つ減少、[▲]は1つ上の項目への移動、としてそれぞれ動作します。

**⑪ Startup Mode (スタートアップモード)**

エディターを新規で起動したときのモードを設定します。

**Voice (ボイス)**

エディターがボイスモードで起動します。

**Multi (マルチ)**

エディターがマルチモードで起動します。

**⑫ [OK]ボタン**

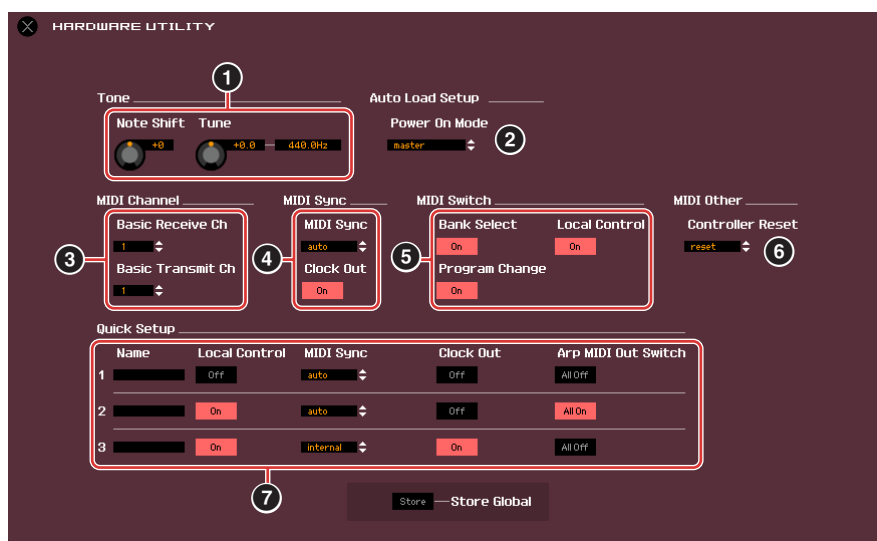
設定を反映して終了します。

**⑬ [Cancel](キャンセル)ボタン**

設定を反映せずに終了します。[×](終了)ボタン(①)と同じです。

## 本体ユーティリティー設定

このメニューを選んで呼び出されるHARDWARE UTILITY (ハードウェアユーティリティー)画面上で、S90 XS/S70 XS本体のユーティリティーモードにおける設定を行ないます。画面に表示されている各パラメーターをエディットすることで、S90 XS/S70 XS本体の該当パラメーターも同期して値が変更されます。画面下の[Store]をクリックすることで、変更された値がグローバルデータとしてストア(保存)されます。



S90 XS/S70 XSエディター(上記画面)		S90 XS/S70 XS本体
① Tone	Note Shift	[UTILITY] → General → Note Shift
	Tune	[UTILITY] → General → Tune
② Auto Load Setup	Power On Mode	[UTILITY] → General → Power On Mode
③ MIDI Channel	Basic Receive Ch	[UTILITY] → MIDI → Basic Receive Ch
	Keyboard Transmit Ch	[UTILITY] → MIDI → Keyboard Transmit Ch
④ MIDI Sync	MIDI Sync	[UTILITY] → MIDI → MIDI Sync
	Clock Out	[UTILITY] → MIDI → Clock Out
⑤ MIDI Switch	Bank Select	[UTILITY] → MIDI → Bank Select Sw
	Program Change	[UTILITY] → MIDI → Prg Change Sw
	Local Control	[UTILITY] → MIDI → Local Control
⑥ MIDI Other	Controller Reset	[UTILITY] → MIDI → Controller Reset
⑦ Quick Setup	1、2、3	[UTILITY] → Quick Set → Quick Setup

## [編集]メニュー

ボイスモードの場合			マルチモードの場合		
編集(E)	バルク(B)	ヘルプ(H)	編集(E)	バルク(B)	ヘルプ(H)
元に戻す(U)		Ctrl+Z	元に戻す(U)		Ctrl+Z
やり直し(R)		Ctrl+Y	やり直し(R)		Ctrl+Y
コピー(C)		Ctrl+C	コピー(C)		Ctrl+C
貼り付け(P)		Ctrl+V	貼り付け(P)		Ctrl+V
ボイスの初期化(N)...		Del	ミキシングの初期化(I)...		Ctrl+Del
グローバルのストア			パートボイスの初期化(N)...		Del
ボイスのストア(S)...			グローバルのストア		
<input type="checkbox"/> ボイスコンペア(M)		Ctrl+P	ミキシングのストア...		
			ボイスのストア(S)...		
			<input type="checkbox"/> ミキシングコンペア(M)		Ctrl+M
			<input type="checkbox"/> ボイスコンペア(M)		Ctrl+P

### 元に戻す

1つ前の操作を取り消します。取り消しできない場合は、メニュー項目がブラックになります。

### やり直し

[元に戻す]を実行する前の状態に戻します。[元に戻す]を実行した数だけ[やり直し]できます。[やり直し]できないときは、メニュー項目がブラックになります。

### コピー

選択している文字列、ボイスデータ、パラメーターをコピーします。コピーできないときは、メニュー項目がブラックになります。

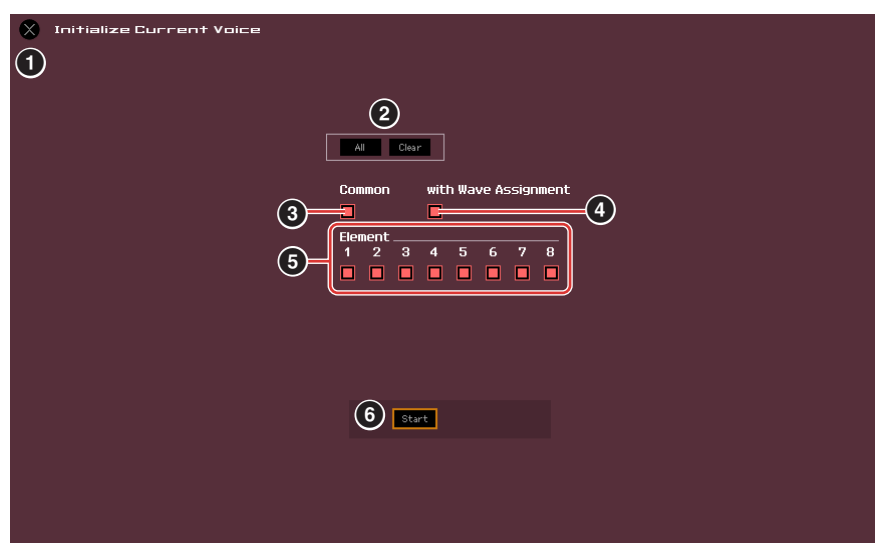
### 貼り付け

コピーした文字列、ボイスデータ、パラメーターを貼り付けます。貼り付けできないときは、メニュー項目がブラックになります。

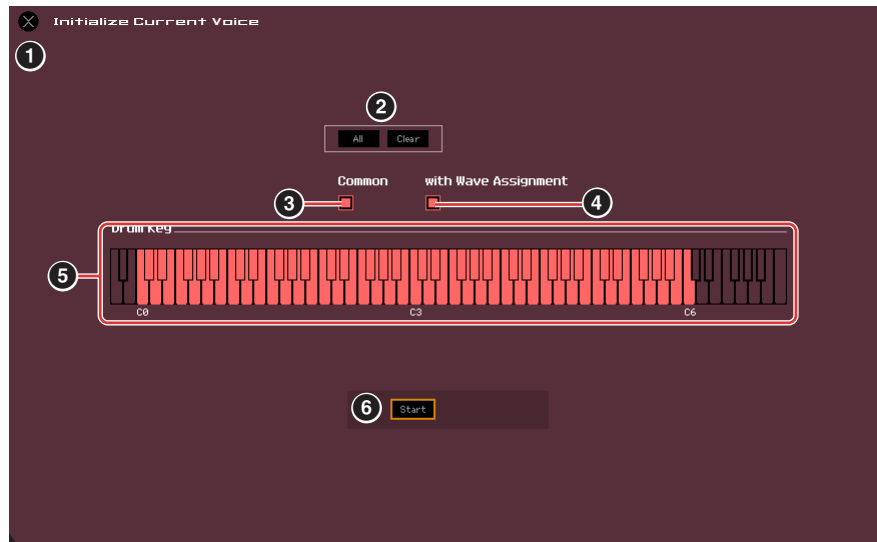
### ボイスの初期化(ボイスモード)/パートボイスの初期化(マルチモード)

現在エディット中のボイスの初期化を行ないます。画面上のすべての設定をしたあと、[Start]ボタンをクリックすることで、初期化を実行します。

#### エディット中のボイスがノーマルボイスの場合



## エディット中のボイスがドラムボイスの場合



### ① [×](終了)ボタン

初期化を行わずに画面を閉じます。

### ② [All](オール)/[Clear](クリア)ボタン

All: すべてのパラメーターを初期化対象とします。

Clear: すべてのパラメーターを初期化対象から外します。

### ③ [Common](コモン)チェックボックス

オンに設定すると、現在選択されているボイスの全コモンパラメーター (ボイスモードの場合はVoice Common、マルチモードの場合はPart Common)を初期化します。

### ④ with Wave Assignment

オンに設定すると、選択したエレメントに割り当てられていたウェーブフォームの設定を初期化します。

### ⑤ Element (エレメント) [1]~[8] または Drum Key (ドラムキー) C0~C6

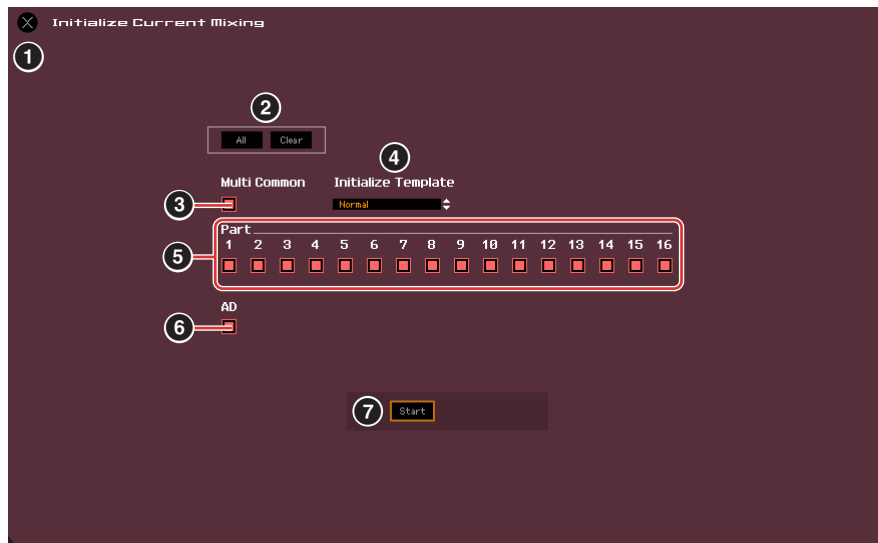
エディット中のボイスがノーマルボイスの場合、ここでオンに設定したエレメントの全パラメーターを初期化します。エディット中のボイスがドラムボイスの場合、ここでオンに設定したドラムキーの全パラメーターを初期化します。

### ⑥ [Start] (スタート)ボタン

設定したパラメーターを初期化して終了します。

## ミキシングの初期化(マルチモードのみ)

ミキシングの初期化を行ないます。画面上のすべての設定をしたあと、[OK]ボタンをクリックすることで、初期化を実行します。



### ① [×](終了)ボタン

初期化を行わずに画面を閉じます。

### ② [All](オール)/[Clear](クリア)ボタン

All: すべてのパラメーターを初期化対象とします。

Clear: すべてのパラメーターを初期化対象から外します。

### ③ [Multi Common](マルチコモン)チェックボックス

オンに設定すると、Multi Common (マルチコモン)のすべてのパラメーターを初期化します。

### ④ Initialize Template (イニシャライズテンプレート)

初期化のテンプレートを選択します。

Normal: 通常の初期化を行ないます。

GM: GM(ジェネラルMIDI)対応の音源として初期化を行ないます。

Contemporary R&B ~ TurkishPop: 各タイトルの目的に沿った設定を行ないます。

### ⑤ Part [1]~[16] (パート[1]~[16])チェックボックス

オンに設定したパートのすべてのパラメーターを初期化します。

### ⑥ [AD]チェックボックス

コモンエディットのA/Dパートに関する設定を初期化します。

### ⑦ [Start]ボタン

設定したパラメーターを初期化して終了します。

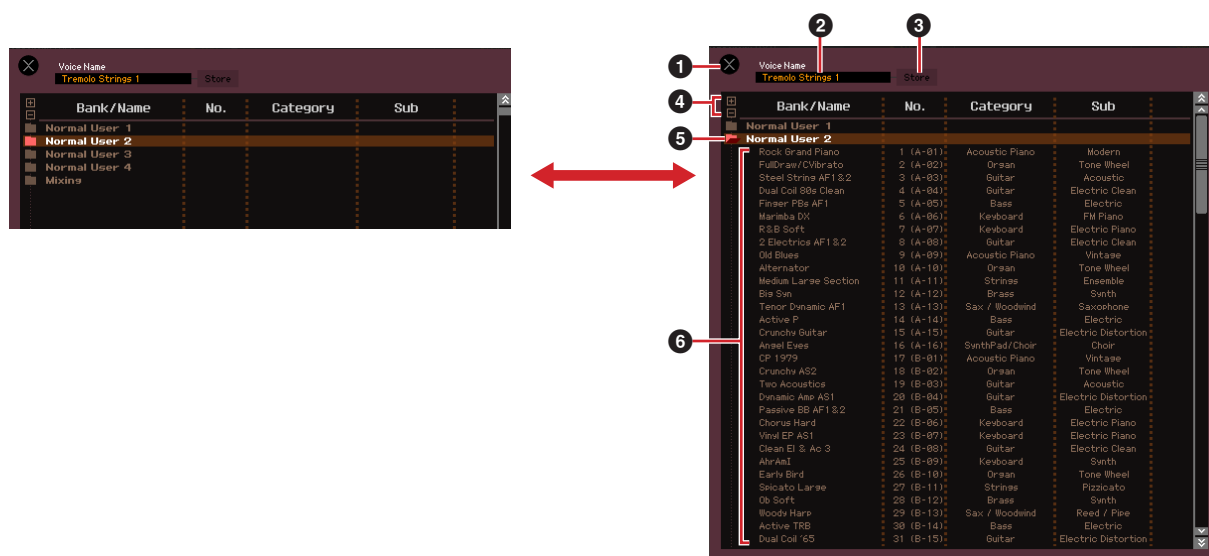
## グローバルのストア

グローバルデータのストア(保存)を行ないます。このメニューを選択しただけで、グローバルのストアは実行されます。グローバルデータは、エディター内ではなくS90 XS/S70 XS本体内部のメモリーにのみストア(保存)されます。

## ボイスのストア

このメニューを選択することで呼び出される画面上で、現在エディット中のボイスを保存(ストア)します。ボイスモードでは現在エディット中のボイスを、マルチモードでは現在選択されているパートに割り当てられているボイスを、それぞれ保存(ストア)します。

保存したいバンクフォルダー (⑤)と、そのバンク内のボイスナンバーを選択し、保存するボイス名を入力します。最後に[Store]ボタンをクリックし、編集したボイスをユーザーボイス(ボイスモード/マルチモード)またはミキシングボイス(マルチモードのみ)として保存します。



### ① [×](終了)ボタン

ストア実行せずにこの画面を閉じます。

### ② Voice Name (ボイスネーム)

保存するボイスの名前を表示/入力します。

### ③ [Store](ストア)ボタン

クリックすると選択した場所にボイスを保存します。



他のパラメーターと同じように、エディターがONLINE (オンライン)の状態であれば、ボイスデータもS90 XS/S70 XS 本体とエディターとで同期しています。したがって、ここでストアを実行することにより、S90 XS/S70 XS本体のユーザーボイスバンクまたはミキシングボイスバンク内の保存先に該当するボイスも同様に変更されることになります。大切なボイスデータが消去されないようご注意ください。

### ④ [＋]/[－]ボタン

[＋]ボタンをクリックすると、バンクフォルダー (⑤)の内容をすべて表示します。[－]ボタンをクリックすると、バンクフォルダー (⑤)の内容をすべて隠します。

## ⑤ バンクフォルダー

ここでは、ボイスの保存先となる以下のボイスバンクを表示します。

- Normal User 1 (ノーマルユーザー 1)
- Normal User 2 (ノーマルユーザー 2)
- Normal User 3 (ノーマルユーザー 3)
- Normal User 4 (ノーマルユーザー 4)
- Drum User (ドラムユーザー)
- Mixing (ミキシング)

これらのバンクをクリックすると、上図のようにそのバンク内のボイスリストを表示したり隠したりします。

なお、現在選択されているモードやエディット中のボイスの種類により、表示されるバンクが違います。Mixing (ミキシング)バンクはマルチモードの場合のみ表示されます。また現在エディット中のボイスがノーマルボイスの場合はDrum User (ドラムユーザー)バンクが表示されません。同様に、現在エディット中のボイスがドラムボイスの場合はNormal User 1～4は表示されません。

## ⑥ ボイスリスト

選択しているバンクのボイスリストを表示します。ここで、保存したいボイスナンバーを選択します。ここで右クリックすると、「全フォルダーを開く」、「全フォルダーを閉じる」というメニューを選択できます。

### ミキシングのストア(マルチモードのみ)

マルチモードでのミキシング設定のストア(保存)を行ないます。保存先のマルチナンバーを選択し、保存するマルチ名を入力して、[Store]ボタンをクリックすると、現在編集集中のミキシング設定がS90 XS/S70 XS本体に保存されます。

### ボイスコンペア

エディット中のボイスを、一時的にエディット前のボイスに戻します。エディット前後の音を聞き比べることができます。この状態では、パラメーターはエディットできなくなります。もう一度選択すると元の状態に戻ります。

**NOTE** S90 XS/S70 XS本体のコンペア機能とは連動していません。

### ミキシングコンペア (マルチモードのみ)

エディット中のミキシングを、一時的にエディット前のミキシングに戻します。エディット前後の音を聞き比べることができます。この状態では、パラメーターはエディットできなくなります。もう一度選択すると元の状態に戻ります。

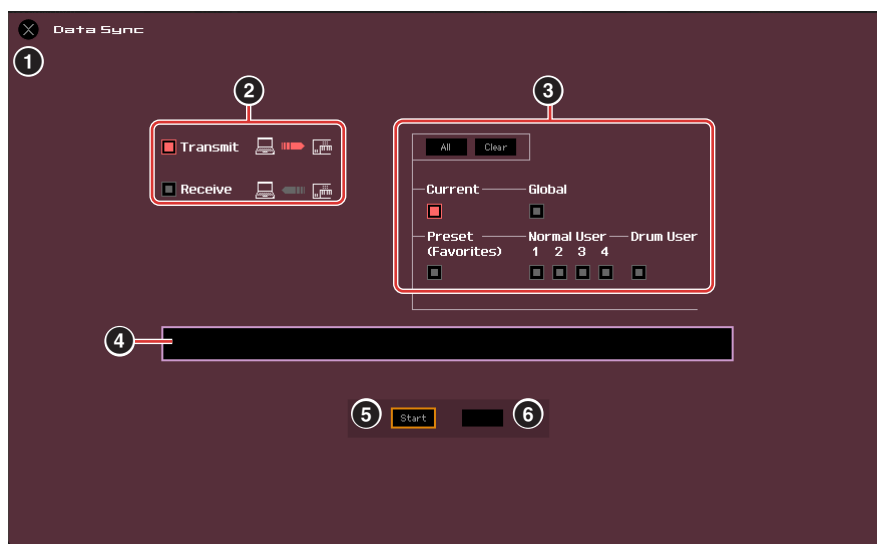
**NOTE** S90 XS/S70 XS本体のコンペア機能とは連動していません。

## [バルク]メニュー



### データ同期

S90 XS/S70 XS本体とバルクデータの送受信を行ないます。



#### ① [×](終了)ボタン

データ同期を行わずに画面を閉じます。

#### ② [Transmit](トランスミット)/[Receive](レシーブ)チェックボックス

データ送受信の方向を設定します。

[Transmit]チェックボックス: S90 XS/S70 XSエディターからS90 XS/S70 XS本体へバルクデータを送信します。

[Receive]チェックボックス: S90 XS/S70 XS本体からS90 XS/S70 XSエディターへ送られてくるバルクデータを受信します。

#### ③ 送受信するデータの種類

送受信するデータをタイプ別に設定します。[All]ボタンをクリックすると全タイプをオンにし、[Clear]ボタンをクリックすると全タイプをオフにします。

##### Current

カレントデータ(現在のエディット状態)を送受信します。

##### Global

グローバルデータを送受信します。

##### Preset (Favorites)

プリセットボイスのFavorites (フェーバリッツ)チェックに関する情報を送受信します。

##### Normal User 1~4

Normal User Bank 1~4のボイスデータを送受信します。

##### Drum User

Drum Userのボイスデータを送受信します。

#### ④ プログレスバー

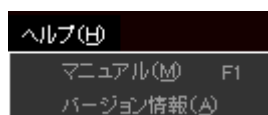
バルクデータの送受信状態を確認できます。

**⑤ [Start](スタート)ボタン**

バルクデータの送受信を開始します。

**⑥ [Stop](ストップ)ボタン**

バルクデータの送受信中にのみ表示されます。クリックすると、その時点でバルク送受信をストップします。

**[ヘルプ]メニュー****マニュアル**

本書を開きます。Adobe® ReaderなどのPDFファイル対応アプリケーションが起動します。

**バージョン情報**

S90 XS/S70 XSエディターのバージョン情報が表示されます。

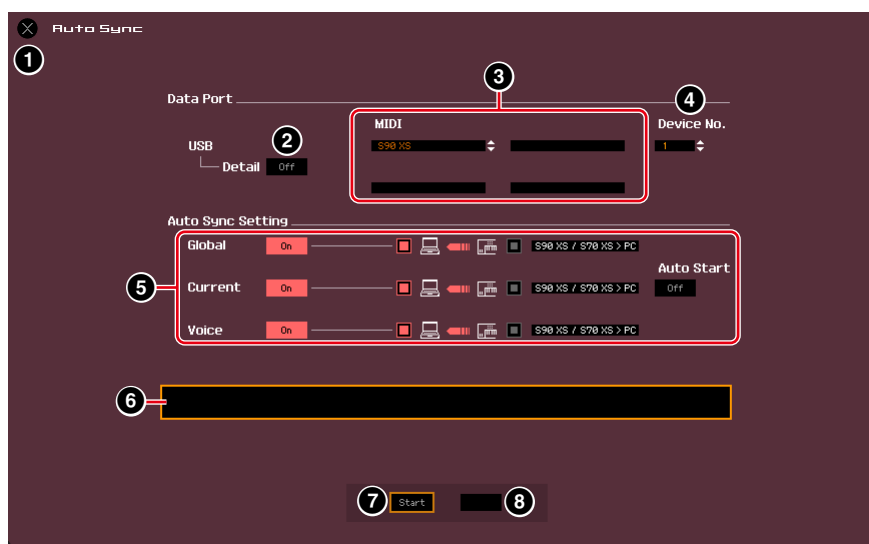
## Auto Sync (オートシンク)画面

この画面は、エディターをOFFLINE (オフライン=エディターとS90 XS/S70 XS本体の設定が連動しない状態)から  
ONLINE (オンライン=エディターとS90 XS/S70 XS本体の設定が互いに連動する状態)に切り替えるための画面です。  
エディターがOFFLINE状態のときは、画面上の[OFFLINE]ボタンをクリックすることで呼び出せます。その他にも、  
下記操作をした場合に自動的に呼び出されます。

- エディター上でファイルを開いたとき
- エディター上ファイルメニューの「新規作成」で新しいファイルを作ったとき
- ONLINE (オンライン)の状態、モードの設定をボイス→マルチ、またはマルチ→ボイスに切り替えたとき
- ONLINEの状態、S90 XS/S70 XS本体のモードをボイス→マルチ、またはマルチ→ボイスに切り替えたとき
- ケーブル接続が正しく行なわれている状態で、S90 XS/S70 XS本体やコンピューター上での設定が、正しくない状態から正しい状態に変更されたとき
- S90 XS/S70 XS本体やコンピューター上での設定が正しく行なわれている状態で、ケーブル接続が正しくない状態から正しい状態に変更されたとき

**NOTE** Auto Sync (オートシンク)画面内にあるAuto Start (オートスタート)をOnに設定してあると、Auto Sync画面が開いただけでデータ同期が始まる場合があります。詳細は、[40ページ](#)をご参照ください。

Auto Sync (オートシンク)画面では、Data Port (データポート)設定を正しく行なったあと、[Start](スタート)をクリックすることで、S90 XS/S70 XSエディターとS90 XS/S70 XS本体のデータ同期を行ないます。データ同期が終了すると自動的に画面が閉じられ、エディターはONLINE (オンライン)の状態になります。



### ① [×](終了)ボタン

ONLINE状態への切り替えを行わずに終了します。

### ② [Detail]ボタン

### ③ Port

### ④ Device No.

### ⑤ Auto Sync Setting

②～⑤は、エディター設定画面の同名の設定と同じ機能です。詳しくは[39～40ページ](#)の②～⑤をご覧ください。

### ⑥ プログレスバー

### ⑦ [Start]ボタン

### ⑧ [Stop]ボタン

⑥～⑧はデータ同期画面の同名の設定と同じ機能です。詳しくは[48ページ](#)の④～⑥をご覧ください。

# トラブルシューティング

「音が出ない」、「正常に動作しない」などといった場合には、まずS90 XS/S70 XSとコンピューターとの接続を確認したあと、以下の項目をチェックしてください。

## コントロールスライダーやチャンネルノブを操作しても音色(音の聞こえ方)が変わらない。

- エディターはONLINEになっていますか？
- [ONLINE]ボタンの左側のインジケーターは点灯していますか？  
点灯していない場合、通信設定に問題があるかもしれません。S90 XS/S70 XSエディターまたはStudio ManagerのMIDIポート設定や、S90 XS/S70 XS本体側のMIDI通信設定(ユーティリティーモードのMIDI画面の設定)、またはケーブルの接続が正しく行なわれているかを確認してください。
- エディター設定のMIDIポート設定やDevice No.が正しく設定されていますか？ (39ページ)

## バルクデータの送受信ができない。

- 上記と同じ点(ONLINE表示、MIDIポート設定など)を確認してください。

## エディター画面で選択したいポート名が表示されない。

- エディター設定画面のMIDIポートは、ホストアプリケーションで設定されているMIDIポートの中から選択できます。ホストアプリケーションでのMIDIポート設定を確認してください。
- ポート名の先頭に「!」マークが表示される場合があります。これはエディターで前回使用したポートが見つからない、またはエディターで必要となるポートが一部しか設定されていないことを示しています。ホストアプリケーションでのMIDIポート設定を確認してください。